

鹿兒島市大黒町石燈籠通

久留市左工門商店

薩摩燒及各國陶器商



電話九二五番

の布設を見る能はずして海陸連絡輸送の設備全からざるは實に遺憾とすべく、夙に地方人士の間に其必要を唱導せらる、商工業の繁榮は主として交通運輸の便否に基因するのと尠少なれば、後日該機關完備せば本市の繁榮は推して知らるべし。

陸路

本市より縣内各地に至る國、縣道里程左の如し。(縣廳土木課調査)

地名	鹿兒島よりの距離	地名	鹿兒島よりの距離
市來港	八里三十二町	枕崎	十六里五町
串木野	九里二十五町	加世田	通十里十四町
向田	十三里二町	知覽	通十三里三十町
阿久根	二十里二十一町	川邊	八里二十三町
米之津	二十五里七町餘	指宿	海裡二十一里二町餘
入來	浦名九里 副田九里三十一町	都之城	國分マテ海裡十七里三町餘
宮之城	十二里十六町	岩川	國分マテ海裡十七里三町餘
永野	猫川マテ海裡卅一哩八 夫レヨリ陸路三里十九町	古江	夫レヨリ陸路十里三町餘
大口	栗野マテ海裡卅五哩九 夫ヨリ陸路四里卅五町餘	鹿屋	古江マテ海裡十六里
谷山	二里十八町	志布志	古江マテ海裡十六里
伊作	七里十六町	内之浦	古江マテ海裡十六里
加世田	十里二十一町	垂水	夫レヨリ陸路十二里六町
		大根占	海裡二十六里

鹿兒島停車場

濱町に在り、從來鹿兒島より吉松に至るの一短線の一驛に

過ぎざりしが今や鹿兒島線の開通と共に貨客の出入頻繁となり停車場の狹隘を告ぐるに至れり。西薩線の布設と相俟ちて他に地を相し之を改築するの計畫あり、一方には目下企畫中の鹿兒島電鐵の連絡を計かると云へば將來九州線中有數の驛站たるべし。

鐵道

明治四十二年十一月肥薩鐵道成り、開通式を舉行してより地方の交通状態に一大變化を與へ、爾來鐵道の發達に伴ひて交通の便益開け旅客の來往、貨物の集散著しく増加し市の發展を促進せり。今各地に至る距離及び二、三等賃金を掲ぐれば左の如し。(通行税を加算せず)

地名	距離	二等賃金	三等賃金
東京	九百四十二哩二	二、九	七、八
名古屋	七百八哩八	九、五	六、三
京都	六百十四哩一	八、五	五、五
大阪	五百八十七哩三	八、七	五、三
神戸	五百六十七哩	七、六	五、三
廣島	三百七十七哩二	六、三	四、一
門司	二百三十七哩七	四、一	二、七
小倉	二百三十哩四	四、〇	二、七
若松	二百二十四哩九	四、三	二、七
直方	二百二十七哩一	四、三	二、七
博多	百八十八哩八	三、六	二、五
二日市	百七十九哩五	三、四	二、三
長崎	二百六十九哩二	四、五	三、〇
佐世保	二百二十五哩六	四、〇	二、八

伊萬里	二百二十哩九	三、六	二、五
唐津	二百十六哩九	三、五	二、三
佐賀	百八十六哩一	三、三	二、二
久留米	百六十六哩二	三、三	二、二
大牟田	百四十五哩七	二、九	二、〇
熊本	百十四哩九	二、五	一、八
人吉	六十哩六	一、四	一、〇
吉松	四十哩五	一、〇	〇、七
國分	十七哩三	〇、四	〇、三
加治木	十三哩一	〇、三	〇、二

電鐵布設の議

本市谷山間の電車布設の議を決する所となり電鐵調査會を設け、博多軌道會社技師を招聘し、其調査を告げれば遠からずして布設を見るに至るべし。電鐵調査會には調査委員數名あり。(四十二年八月記事)

鹿兒島港

鹿兒島港は鹿兒島鐵道と相俟ちて鹿兒島商業界に於ける運命を左右する唯一の首腦機關にして、肥薩鐵道開通後の商業は實に長足の進歩を示しつつあり。明治初年の鹿兒島港は内港狹隘にして淺さに失し外港廣漠として深さに失するの憾あり、貨客の交通、船舶の碇泊共に甚だ不便を極む。明治二十四年内港の浚渫に従事し二十七年に至り水深三尺を増すの工事を竣へたるも戦後臺灣の領有あり、船舶貨物の集散劇増せるため到底其用を完せしむること能はず、遂

に根本より其改修を行ふの議を決し、明治三十年より之が調査及び起工に着手せしも中途經濟界の恐慌に逢ひ中絶し再び繼續して三十八年十二月漸く竣工したり、此間日數を費すこと千六百九十六日、工費八拾五萬四千八百八拾六圓吏員費四萬參千七百九拾圓餘を要し以て現在の港灣を成せり、然るに成工後數年ならずして貨物の集散は戰後經濟界の亢進と共に劇増し現在の設備にては既に不完全を愾ふに至りしかば、今や第二期擴張の審案中にて他日第二期工事竣工を見んか、内港に於ける有効水面は殆んど現在に五倍し、外港亦た設備完全するを以て居然として有數の大商港を成し、鹿兒島市は正に南九州商業の中心たるに至らん。

貨客及出入船舶

鹿兒島港の貨客及出入船舶は前記の如く數度の港灣改修に巨舶の碇繋に便なるを以て、貨客の輻輳船舶の出入盛なりと雖も、更に第二期工事の竣工に至らば如何に繁華を極むるか推知すべきなり。左に昨年中の出入船舶及び貨客の數を示さん。

出港

年別	船別	隻數	噸數	客數	貨物
明治四十二年	汽船	三、七四	一、〇一五、八四六	一〇三、七四	一、七七六、六九
全	帆船	三六	一一、四〇九	—	一、七〇七、二二

入港

年別	船別	隻數	噸數	客數	貨物
明治四十二年	汽船	三、七四	一、〇一五、八四六	一〇三、七四	一、七七六、六九
全	帆船	一八一	一一、八八一	—	二、〇〇七、二二

海路

鹿兒島港の航路は油津、細島を経て神戸大阪に至るもの、大島、沖繩に至るもの、種子島、屋久島に至るもの、及び宮古、八重山を経て基隆に至るものを最とし、以上大阪商船會社及鹿兒島郵船會社の定期航路なり。今定期航路、賃金、運程を示せば左の如し。(四十二年八月調査)

大阪鹿兒島線

往大阪				往鹿兒島			
航	往	航	往	航	往	航	往
大	神	大	神	大	神	大	神
阪	戸	阪	戸	阪	戸	阪	戸
着	全	着	全	着	全	着	全
午	八、〇〇	午	八、〇〇	午	八、〇〇	午	八、〇〇
後	六、三	後	六、三	後	六、三	後	六、三
六	日	六	日	六	日	六	日
日	目	日	目	日	目	日	目

大阪沖繩線

往大阪				往沖繩			
航	往	航	往	航	往	航	往
大	神	大	神	大	神	大	神
阪	戸	阪	戸	阪	戸	阪	戸
全	着	全	着	全	着	全	着
午	午	午	午	午	午	午	午
後	後	後	後	後	後	後	後
十	十	十	十	十	十	十	十
二	二	二	二	二	二	二	二
日	日	日	日	日	日	日	日
目	目	目	目	目	目	目	目

毎五の日大阪出帆船は往復共福島に寄港す。  
但し荷客其他の都合に依り鹿兒嶋は入港當日出帆するこ  
とあるべし

鹿兒嶋より各港に至る賃金と湮程

港名	一等	二等	三等	湮程	港名	一等	二等	三等	湮程
神戶	一、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇	沖繩	一、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇
細島	七、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	大島	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇
油津	六、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇〇	大阪	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇

沖繩經由大阪基隆線

往	大	鹿	大	沖	宮	八	基
神	鹿	島	島	繩	古	重	隆
大	兒	島	島	繩	古	山	隆
神戶	鹿兒嶋	大島	大島	沖繩	宮古	八重山	基隆
發着	發着	發着	發着	發着	發着	發着	發着
午後七時	午後四時	午後五時	午後六時	午後七時	午後八時	午後九時	午後十時
初日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日

鹿兒嶋屋久島線

往	鹿	屋	久
鹿	屋	久	島
鹿	屋	久	島
鹿兒嶋	屋久島	久島	島
發着	發着	發着	發着
午後十時	午後二時	午後二時	午後三時
初日	二日	二日	三日

鹿兒嶋各港に至る賃金

港名	一等	二等	三等
宮古	一、八〇〇	一、二〇〇	七、〇〇〇

線	隆	基
航	大	沖
大	鹿	繩
神	兒	島
神戶	鹿兒嶋	沖繩
發着	發着	發着
午後	午後	午後
前日	前日	前日
二十日	十八日	十五日

八	基	種	屋
重	隆	子	久
山	隆	島	嶋
八重山	基隆	種子島	屋久嶋
一〇、〇〇	二、六〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇
一三、〇〇	一、七〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇
一七、〇〇	一〇、〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇

又た鹿兒島灣内航路としては鹿兒島坊之津間の諸港を毎日  
往復するもの、(肥後汽船會社定期汽船)。鹿兒島大根占間  
の諸港、鹿兒島宮ヶ濱間の諸港、鹿兒島福山間の諸港及び  
鹿兒島山川間の諸港を毎日往復するもの、(灣内汽船會社定  
期汽船)あり。左に航路、賃金を示さん。(四十二年  
八月調査)

肥後汽船會社定期汽船

港名	下り	上り	賃金
鹿兒島	九、〇〇	四、〇〇	鹿兒島
山川	三、〇〇	一、〇〇	鹿兒島
石垣	一、〇〇	一、〇〇	鹿兒島
松ヶ浦	三、〇〇	一、〇〇	鹿兒島
枕崎	四、〇〇	九、〇〇	鹿兒島
坊之津	五、〇〇	七、〇〇	鹿兒島

灣内汽船會社定期汽船

港名	下り	上り	賃金
鹿兒島	九、〇〇	六、〇〇	鹿兒島
垂水	一〇、一〇	四、〇〇	鹿兒島
砂子	二、〇〇	四、〇〇	鹿兒島
古江	正午	三、〇〇	鹿兒島
高洲	三、〇〇	二、〇〇	鹿兒島
大根占	一、〇〇	一、〇〇	鹿兒島

此外久志臨時月三回、伊佐敷定期三回アリ

鹿兒島宮ヶ濱線

鹿兒島福山線

港名	下り	上り	賃金
鹿兒島	發前九、〇〇	着後四、〇〇	鹿兒島より
五位野	全前二、〇〇	發後三、〇〇	一五
瀬々串	全前二、〇〇	發後三、〇〇	二〇
喜入	全正午發後三、〇〇		二六
田貫	全發後二、〇〇		三〇
今泉	全發後二、〇〇		三〇
宮ヶ濱	着後一、〇〇	發後二、〇〇	三〇

港名	下り	上り	賃金
鹿兒島	發前九、〇〇	着後四、〇〇	鹿兒島より
古里	全前二、〇〇	發後三、〇〇	一五
有村	全前二、〇〇	發後二、〇〇	二〇
二川	全前二、〇〇	發後二、〇〇	三〇
境	全前二、〇〇	發後二、〇〇	三〇
福山	着三、〇〇	發後一、〇〇	三〇

此外鹿兒島山川間の東航線及西航線あれど其寄港地は各前表に加はり居るを以て之を省略す。

旅館

商工業の繁榮發達と共に來往の旅客頻繁を加ふることゝて本市旅館も稍々發達し來れるが未だ其の完全なるもの少なし、先年其筋の認可を得て旅館業組合を組織し協力一致營業の改善に勉めつゝあり、殊に鐵道開通後は多數の旅客出入するを以て一層旅客の取扱に留意し設備に改善を加へて江湖の満足を買ふ事に苦心せるを以て多少面目を一新することを得たり。現今旅館數は百十八軒にして未だ宿料の規定なきも次の如き等級に分てるが如し。(一等旅館)特等參圓中食壹圓五拾錢、一等貳圓同壹圓、二等壹圓五拾錢同七拾五錢、三等壹圓貳拾錢同六拾錢、(二等旅館)一等貳圓中食壹圓、二等壹圓五拾錢同七拾五錢、三等壹圓貳拾錢同七拾五錢、三等壹圓五拾錢同七拾五錢、三等壹圓貳拾錢同

六拾錢、四等一圓同五拾錢、五等八拾錢同參拾五錢、(三等旅館)一等壹圓貳拾錢中食五拾錢、二等壹圓同四拾錢、三等八拾錢同參拾錢、四等七拾錢同貳拾五錢、五等五拾錢同貳拾錢なり。市内旅館名を掲ぐれば左の如し。

- 一等旅館 薩摩屋(山下町) 明治館(東千石町) 花屋、南州館(以上山下町) 池畑旅館、岡部旅館(以上沙見町) 山下旅館(住吉町) 不二屋、山城屋(以上築町)
- 二等旅館 龍澤館(東千石町) 薩洲館(易居町) 一力旅館、山福旅館、富久屋、右田旅館、千石館、有川旅館、有水屋、龜屋、鶴屋、丸屋、常盤屋、竹屋(以上東千石町) 服部旅館、吉田屋、濱田屋、紫雲館、萬屋、岩屋(以上仲町) 旭館、朝日旅館、櫻井旅館、東陽館、町田屋、岡田屋、富士見屋(以上山下町) 都屋(生産町) 松崎屋、鈴木旅館(以上小川町) 大迫旅館(吳服町) 松崎屋、井上旅館(以上六日町) 近江屋、樋口旅館(以上築町) 中村屋(住吉町) 松元屋(堀江町) 山田屋(長田町) 丸葉旅館(和泉屋町) 渡邊旅館(沙見町)
- 三等旅館 鶴嶺館、徳田屋、新徳屋、清水屋(以上築町) 濱田屋、厚地屋、大山旅館、川島屋(以上泉町) 大團旅館、高田屋、徳永屋、染川屋、岩屋、阿久根屋、富本屋、下舞屋、西旅館、本防屋館、西尾屋(以上船津町) 有馬屋、松山旅館、垂水屋、中馬旅館(以上吳服町) 田代屋、内村屋、島中屋、田良島屋、加治屋(以上大黒町) 平田屋(堀江町) 出水屋、白石屋(以上新町) 二之宮旅館、鈴木屋、鶴田屋、錦江旅館、有村屋、(以上生産町) 松屋、清原旅館、菊屋(以上惠美須町) 大坪旅館(和泉屋町) 田中屋、安田旅館、山崎屋、厚地屋、福岡屋、下山旅館、山下屋、御園屋(以上東千石町) 金子旅館(山之口町) 鳥飼屋(樋之口町) 岩下屋、山口屋、柴山旅館(以上易居町) 島屋(山下町) 西川屋、山崎屋、三原旅館、徳田屋(以上仲町) 相良屋(金生町) 大辻屋、中野屋(以上六日町) 岩田屋、瀬戸山旅館、不二屋、竹下屋、黒木旅館(以上住吉町) 福山旅館、川畑旅館(沙見町) 白石旅館(築町)

人力車

市内人力車総數千百六十六輛にして賃金は十町に付一人乗五錢とし、以上五町を加ふる毎に半額を増す規程なり。尙ほ二人挽は定額の二倍、三歳未満は無賃、十歳未満は半額、但し一人乗は一人前とす、一日雇は壹圓以内半日雇は六拾錢以内、客待は一時間五錢とし、夜間又は雨雪泥濘の時は二割増、強風雨及雨雪の夜間并に乗客の指示により特に急を要したる場合は三割増とせり、然して右人力車賃金取締上鹿兒島警察署にては常に市内營業の車夫をして詳細なる賃金表を携帶せしむるにより土地不案内の乗客は就て規定の賃金を知るを得べし、又た鹿兒島停車場に於ては兼て人力車乗車券を發賣し不當賃金の請求を取締れり。

人力車駐車場

市内公設人力車駐車場百三箇所あり、私設人力車駐車場三十餘箇所あり。

乗合馬車

本市乗合馬車總數六十臺にして駐車場は西千石町及び新屋敷町の二箇所にあり、前者は川内、米之津方面行の發車場にして後車は谷山、伊作、指宿方面行の發車場なり。馬車賃金額は左の標準に依る。

- 一、乗合馬車賃は一人一里に付金八錢以内、但し十歳未満は半額三歳未満は無賃

- 一、一里未満は二町毎に金五厘以内
- 一、阪路は二割以内險路其他特別の事情ある所は五割以内を増すことを得
- 一、雇切り賃金は二人迄は三人分、二人以上は一人を増す毎に一人分以内の賃金を加ふ、定員以上の賃金を超ゆることを得ず
- 一、手廻荷物は一人に付五貫目迄とし二貫目以内は無賃二貫目以上は一貫目毎に一里に付金五厘以内の賃金をとす
- 一、雇切の荷物は一人に付七貫目迄とし三貫目以内は無賃三貫目以上は前項の例に依る。但し總量三十貫目を超ゆるを得ず
- 一、乗客の都合に依り停車するときは十分間毎に金壹錢以内を増すを得

通信

鹿兒島郵便局——市内郵便局所——郵便——電信——電話——郵便爲替貯金

人事の發達、商工業の進歩と共に郵便、電信、電話等の通信機關の利用頻繁を加ふるに至るは自然の理數なるべく、本市の通信事務は年一年に激増し、其郵便物集配數の如き縣下に於て第一位にあり、通信機關の繁開はやがて地方の

繁榮發達を測る尺度なりとすれば、此一事以て本市の發達を證すべきなり。

鹿兒島郵便局

本市の中央、縣廳前の丁字形をなしたる道路の一角を占領せる石造の高層なる三階建は即ち鹿兒島郵便局なり。郵便、小包、電信、電話、貯金、年金恩給の給與等の取扱をなし、市に於ける通信は總て此處に處理し、大は國家の行政より商工農の各業は勿論、細は個人の寒暑消息に至る迄皆一度は此關門を通過して各々其本能を發揮し、人身の血液關係に於ける大動脈たる能力を有する市の重要なる一機關たり、其消長の實狀を探究せば、當市の富の程度を測る點に就て發展の速度一斑を窺ふに足るべし。

市内郵便局所

此大動脈に附隨して血液循環の役目を行ふ市内郵便局所は左の如し。

郵便局名	所在地	取扱事務
池之上	池之上町	郵便、小包、爲替、貯金、電話
堅馬場	和泉屋町	郵便、小包、爲替、貯金
築町	築町	全
石燈籠	金生町	全
千石馬場	東千石町	全
西田	西田町	郵便、小包、爲替、貯金、電信
伊敷	伊敷村	郵便、小包、爲替、貯金、電信、電話
高麗町	高麗町	郵便、小包、爲替、貯金

右の外郵便切手賣捌所九十八箇所、郵便函數九十八あり。

郵便

活動する都市は、郵便の配達は郵便に差出すものより多數なるを例とす。鹿兒島郵便局の調査に依れば四十二年度に於ける通常、小包郵便の引受及配達數左の如し。

通常(引受)	八、二六四、八七七
通常(配達)	七、〇八二、九七七
小包(引受)	五六、七七〇
小包(配達)	八五、六二三

右に依れば引受と配達とは實に著しき差あり、地方各部落が引受より配達の多數なる例に比較考量せば、當市が九州の西南隅に如何に活動の基礎を確定しつゝあるかは瞭然たる事實なるのみならず、其十年前即ち三十三年度に比すれば通常の引受は十四割二歩餘、全配達は十六割一歩餘の増加にして、世人が最も發展の高速度なるを認むる神戸市の如き十年間に於て引受の十割四歩餘、配達の十六割七歩餘の増加に對照せば、寧ろ豫想外の好成績なるに驚かざるを得ざるべし、今通信力の程度を知るに便する爲め人口一人當ての通信力を左に掲記す。

人口一人當て一箇年總數

通常〔引受 四十二年度〕一〇一強 三十三年度〔六〇弱  
〔配達 四十二年度〕一〇四弱 四八弱

電信

電信は商業の消長に依り必ずしも増減あらるに非ず、他地方へ出勤者の多き場合及船舶出入に關し比較的風浪高き航路を有するもの等は多大の原因をなして増嵩するものなきに非ず、本市の電信は四十二年度に於て發信は一戸當り平均二十通強にして着信は全十九通弱なり、又進歩の狀況は此十年間に發信は九割六分四厘を増し、是又神戸の増率九割〇四厘を凌ぎたるを以て、本市民は大に意を強くして可なるべし。今本市十箇年の比較表を掲ぐれば左の如し。

種別	四十二年度	三十三年度	比較増	全上歩合
發信通數	二五、〇〇〇	一五、一八九	一〇〇、四四二	九六四
著信通數	三三、七七一	一四、四四九	八九、三三三	六、一〇
發信料金	六、三六、八四〇	三、二四、八七〇	三、一三一、九七〇	九、七二

國家重要な事件あるか若くは地方稀有の出來事あれば、直に神經過敏となり高率に登るは電信の性質上當然なれど、五年或は十年の時日を経過する間には地方進歩の狀況を觀察するに足るものあるべし。

電信事務取扱は本局の外荒田局、伊敷局、西田局及び鹿兒島停車場に於てせり。

電話

本市電話交換局の開始は三十九年度にして其後急足の進歩をなし、現に八百二十五の加入者ありて本年内には一千五十五を算するに至るべしと云ふ、交換器も亦復式に變更工事中なれば本年十一月より使用し得べく、九州に於て復式交換器を使用するは長崎、福岡の二箇所なるを以て當地を加へて三箇所に過ぎず、熊本の般賑、門司佐世保の新進、小倉の師團所在地にして尙且つ先鞭を着くるを得ずとせば、本市の繁昌は薩南の健兒として聊か氣を吐くに足るべし、只恨むらくは縣外に通話を得る重なる土地は宮崎、都之城位に過ぎずして眞に孤立の觀なき能はず、大島、沖繩等の貨物中繼港たる當市として大阪の中央市場に通話し得ざるは其不便亦甚だし、今市内自働電話設置箇所を掲ぐれば左の如し。

- 濱町鐵道鹿兒島驛構内 生産町第一樓橋
- 西千石町柿本寺通馬車駐車場 沙見町第二樓橋
- 新屋敷町武橋駐車場

郵便爲替貯金

郵便の爲替貯金は元來零碎なる金額の送達及蓄積を爲すを目的とするを以て世間往々注目を怠り經濟界より除外せらるゝこと多し、然るに其實力は場合に依りては地方有力銀行を凌ぐことなきに非ず、當市の郵便爲替貯金の收支四十二年度に於ける年額を三百六十五分し、此外近傍各三等郵





- 鹿兒島市洋物商組合 仲町 鹿兒島市文具商組合 仲町
- 鹿兒島夜市商人組合 山之口町 鹿兒島藥業懇和會 吳服町
- 鹿兒島材木商組合 易居町 鹿兒島漆器商組合 金生町
- 鹿兒島市製靴同業組合 吳服町 鹿兒島市陶器商組合 大黒町
- 鹿兒島錫器同業組合 六日町 鹿兒島市自轉車同業組合 山下町

産業組合

鹿兒島購買組合(山下町)鹿兒島縣產牛馬組合(山下町)鹿兒島縣蠶種貯藏生産組合(易居町)あり。

水産組合

鹿兒島漁業組合及び鹿兒島鯉節水産組合あり。

其他

前項組合中製造業に屬するものあり、工藝團隊聯合を組織し本市工藝の振起發達に勉めつゝあるものあり、尙は販賣業に屬するものにして商業組合聯合會を組織して斯業の發展に勉めつゝあるものもあり。

遊覽地

- 磯島津邸——照國神社——祇園之洲——琉球人松田之浦公園——南洲翁誕生之碑——甲東翁誕生之碑——岩崎谷之洞窟——南洲翁終焉之地——南洲翁以下之墓(淨光明寺)——月照上人之墓——西郷吉次郎之墓——横山安武之墓——城山公園——東福寺城跡——福昌寺——大龍寺跡——天保山——松原神社——高野山別院——西本願寺別院——俊寛堀——孝行橋跡——鹿兒島八景——櫻島

薩州の地何ぞ外客の心を牽くこと多き、鹿城は古今數百千年の歴史を藏し、北に祇園の洲あり、南に天保山の殘壘あり、西に城山の古戰場あり、更に東港には英艦來寇の史跡を存し、而して海濱は白砂青松相連ること數十里、長汀曲浦の眺めは言はずもがな、近くは櫻島、遠くは霧島高隈開聞等三州の眺望一として得られざるなし。

磯島津邸

縣廳を去ること約七合吉野村磯にあり、舊藩主島津公爵の邸也。山を負ひ海に臨み四季の風光自然の趣眞に天下の絶妙を極む、その邸内を仙巖園と呼ぶ、島津家十九代光久公の萬治年間に經營せられ、寛文年中一亭を新築し落成式を擧ぐるや、双鶴來たり亭上に止まりて去らず、因て喜鶴亭と名付く。園の中央望嶽樓は支那古代の擬屋、王羲之の筆に成る額を掲ぐ。其の傍に砲二門あり、之れ天正の昔島津義久公豊後の大友氏と日向の耳川に戦ひ、葡萄牙國より大友義鎮に贈りたるものを捕獲したるもの。木馬は朝鮮の役に持ち歸りたるものなり。我が東宮殿下をはじめ奉り英國皇甥コンノード殿下、曾てこの邸を以てその旅館に充て給ひたる等來鹿の貴紳にして足をとこの邸に入れざる人なく、奈何に其山紫水明の絶勝なるかを知るべし。

照國神社

照國神社は城山の南麓山下町にあり。島津家第廿八代の英

主齊彬公の靈祠にして、境内廣く樹多く、一小公園の觀ありて社頭の老松は數百年の綠益々深し。公は嘉永四年封を嗣ぐ、時や内憂外患一世靡然として國事多端を極め、其間に處し内治外交大に意を用ゐ、大砲の鑄造、寫眞術、電信機、瓦斯燈、紅色硝子製造等理化學工藝及び西洋の文學等自ら學び而して人に勸め斯くて學校を興し武道を勵し、知政僅かに八年その歿後文久三年英艦來寇の時水雷二個を布設したりといふも實に公の遺物として特記すべきものなり。安政五年七月二十日を以て本丸に夢す。享年五十有一、文久三年十二月公生前尊王の誠忠を嘉賞し、贈中納言從三位の宣命あり。次で近衛忠熙公之に照國大明神と命名す。明治二年十一月又贈從一位の宣命あり。超えて同十五年十二月別格官幣社に列す。

#### 祇園之洲

稻荷川の下流にして、磯吹く風に松華乱れ落つる處、明治丁丑の役官軍戰病死者を葬れる墓累累として並び建つ、是れより先き文久三年英艦七艘來寇するや、藩兵巧みに應戰して敵の旗艦以下五十餘名の死傷者を出し、味方は僅かに一名の戰死者ありしのみ、中にも敵の一艦はこの砲臺前の淺洲に乗り掲げて狼狽の態一方ならず、時に薩軍の砲門既に多く激射に破れて其用をなさず、爲めに辛くも彼れは滿潮に乗じて遁れ去りたり、戦後この臺場より砲痕七十二個

の多數を發見したり、以て奈何に其激戦たりしかを推知すべし。

#### 琉球人松

田之浦より磯街道に辿り行く途上、島津邸の樓門初めて眼界に入る處、一怪巖頭を擡げて海に臨む、その頭に一奇松肢を張りて茂る、是れ琉球人松也、傍に一個の石燈籠を建つ。此處世俗に怪談を残す、されど其因縁を明にせざるなり。

#### 田之浦公園

田之浦公園一名錦江園と呼ぶ、磯街道東福寺城跡にあり。漫々たる錦江の水は脚下を音づれ、濛々たる船舶の煙は大空に迷ふ。右には筑紫の薩摩富士と歌人の歌ひけむ開聞の嶽すつくと聳え、頭を返せば左方には不斷の靈煙を吐いて神代ながらの高千穂の峰雲に横はつて神秘の面影浮ぶ。兩眼に映じたる薩、隅、日三州の山水は壯麗とや云はむ、審美とや言はむ、その展望の曠濶なる、その自然の雄大なる城山公園の上に出づ。

#### 南洲翁誕生之碑

加治屋町甲突川の東涯にあり。碑は石壁を繞らして約一反芝生の圓き壇上に建て、文學博士重野安繹氏の撰文を彫せり、紀念樹多し。

西郷君以文政十年丁亥十二月七日於鹿兒島城下加治屋町

露光量違いの為重複撮影

此處即君之宅跡也我輩與君同鄉里得其風采德音於見聞之際景仰欽慕不能自止恐歲月之久遺跡或湮滅於是相謀建一碑以傳永遠庶幾後之生長此鄉者有所感發興起焉

明治二十二年三月二十日建

甲東翁誕生之碑

加治屋町猫薬小路にあり。南洲翁の碑と同時に工を起し、もの、その誕生は南洲翁に後るゝこと三年、即ち天保元年八月十日なり。

岩崎谷之洞窟

明治丁丑の役薩軍奮闘熊本城を圍みたるも軍遂に破れ、七百の旗下を提げて歸り來たれる處、南洲翁以下將士相據りて孤壘を守ること二十餘日、翁は常にこの洞窟に起臥し、胸中戰塵を忘れて悠々棋響に親しむ。死後樞密顧問官子爵杉孫七郎氏が翁の心事を詠じ、窟前に碑を建て、之を刻す。  
(此詩は翁の詠せしものなりと既刊書に見ゆるも之れは誤りにて前記杉子爵の詠なるを正とす)

百戰無功半歲間

首邱幸得返家山

笑儂向死如仙客

盡日洞中棋響閑

猶洞中にありし壁書に曰く。

籌策未成穴中夢

八洲民庶悵秋風

南洲翁終焉之地

山下町岩崎谷入口にあり。孤軍城山を守れども劍すでに折

公債證書

地金銀

有價證券

其他礦山用品一切

鹿兒島市吳服町

大坪伊太郎商店

電話一三六番

此處即君之宅跡也我輩與君同鄉里得其風采德音於見聞之際景仰欽慕不能自止恐歲月之久遺跡或湮滅於是相謀建一碑以傳永遠庶幾後之生長此鄉者有所感發興起焉

明治二十二年三月二十日建

甲東翁誕生之碑

加治屋町猫薬小路にあり。南洲翁の碑と同時に工を起し、もの、その誕生は南洲翁に後るゝこと三年、即ち天保元年八月十日なり。

岩崎谷之洞窟

明治丁丑の役薩軍奮闘熊本城を圍みたるも軍遂に破れ、七百の旗下を提げて歸り來たれる處、南洲翁以下將士相據りて孤壘を守ること二十餘日、翁は常にこの洞窟に起臥し、胸中戰塵を忘れて悠々棋響に親しむ。死後樞密顧問官子爵杉孫七郎氏が翁の心事を詠じ、窟前に碑を建て、之を刻す。  
(此詩は翁の詠せしものなりと既刊書に見ゆるも之れは誤りにて前記杉子爵の詠なるを正とす)

百戰無功半歲間

首邱幸得返家山

笑僕向死如仙客

盡日洞中棋響閑

猶洞中にありし壁書に曰く。

籌策未成穴中夢

八洲民庶悵秋風

南洲翁終焉之地

山下町岩崎谷入口にあり。孤軍城山を守れども劍すでに折

露光量違いの為重複撮影

公債證書

地金銀

有價證券

其他礦山用品一切

鹿兒島市吳服町

大坪伊太郎商店

電話一三六番

株式 公債 現物問屋

大西兩替店

電話 二二二二番

鹿兒島市金生町五

各種公債株式値段御照會次第  
御回答可申上候

鹿兒島市山下町旭通郵便局下角

自轉車  
輸入商 渡島自轉車店

電略(ワタ)電話一五四番



確 實 正 札 附

# 洋傘專門店

鹿兒島市吳服町石燈籠通上

山本分店出張所

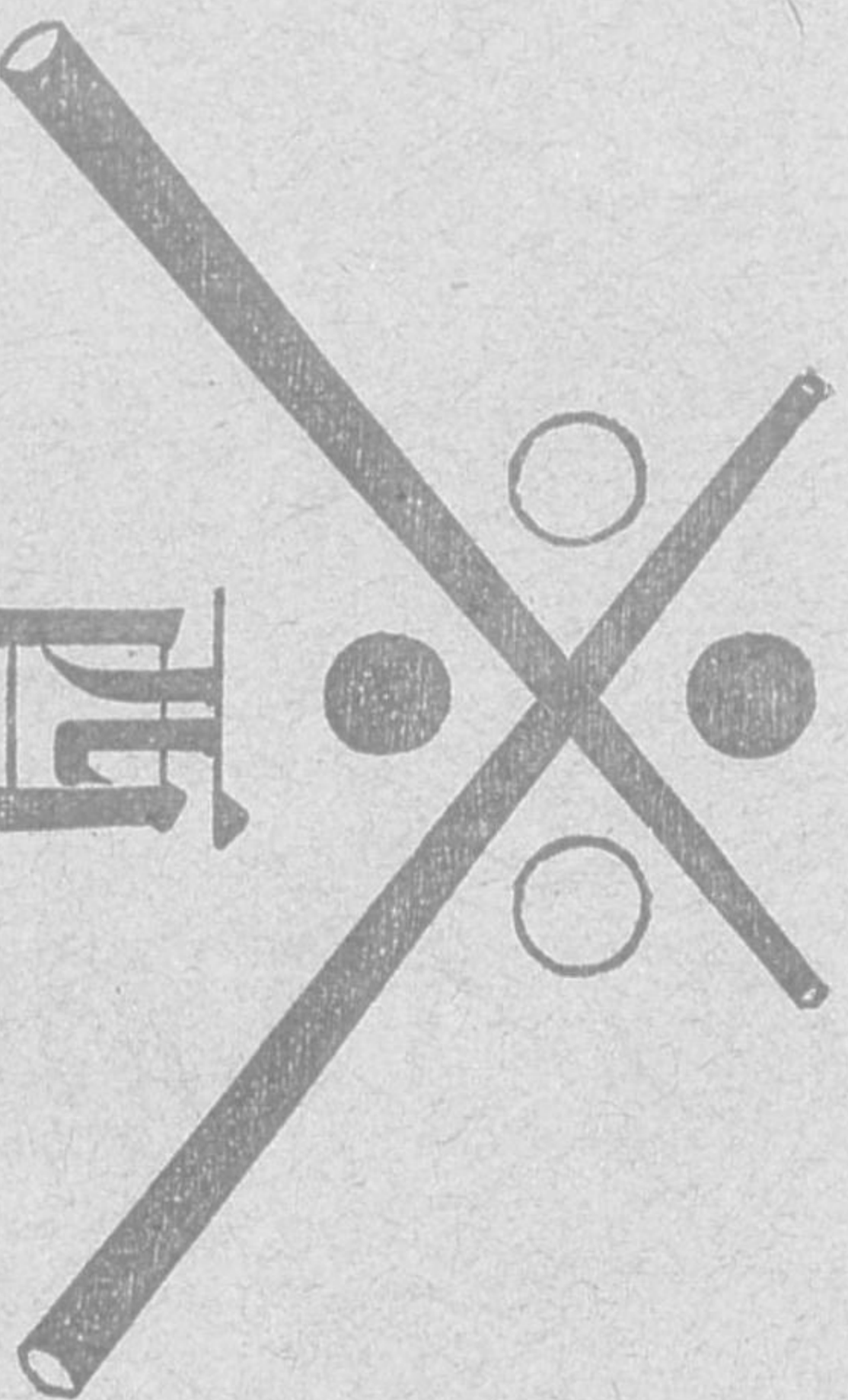
三 山本式洋傘ハ時ノ風潮ニ後ズレ

製造法最モ新式ナリ

弊店發賣ノ上等洋傘ハ原料ヲ東京ヨ  
リ買入レ熊本市山本分店第一工場ニ  
於テ數十名ノ職工ニテ製造セリ

山本分店鹿兒島出張所

伊藤俊藏



## 西洋玉突遊技場

浪花軒

玉突臺二臺据付

鹿兒島市東千石町西本願寺別院横通



目 科 業 營

附 貸 諸。金 リ 預 諸。金 預 蓄 貯

社 會 式 株

# 行 銀 蓄 貯 島 兒 鹿

町 日 六 市 島 兒 鹿

番 一 三 一 話 電

## ◎ 吉田書房發行書目

- 詳鹿兒島縣地圖 金貳拾錢 郵二錢
- 密鹿兒島市街實地踏查圖 金拾貳錢 郵二錢
- 新肥薩鐵道旅行案内 金貳拾錢 郵四錢
- ますらをの友(薩摩琵琶歌) 金七拾九錢 郵八錢
- 鹿兒島語と普通語 金拾錢 郵二錢
- 鹿兒島語法 金參拾錢 郵四錢
- 鹿兒島名所繪葉書

- ⊕ 印入文具品發賣元
- 島津製理化學器械特約店
- 山葉オルガン特約販賣店
- 鈴木ヴァイオリン特約販賣店
- 國定小學教科書特約販賣所

鹿兒島市 仲 吉 田 書 房

振替口座大阪七四一六番  
電話四四番二六七番

鹿兒島市 高 麗 町 吉 田 支 店 電 五 一 六 番 話

川 內 向 田 町 吉 田 支 店 電 一 八 番 話





露光量違いの為重複撮影

# カールン並ニ饅頭

蒸物類一  
生菓子類一

## 製造元

鹿兒島市築町野上橋通

岡村梅屋

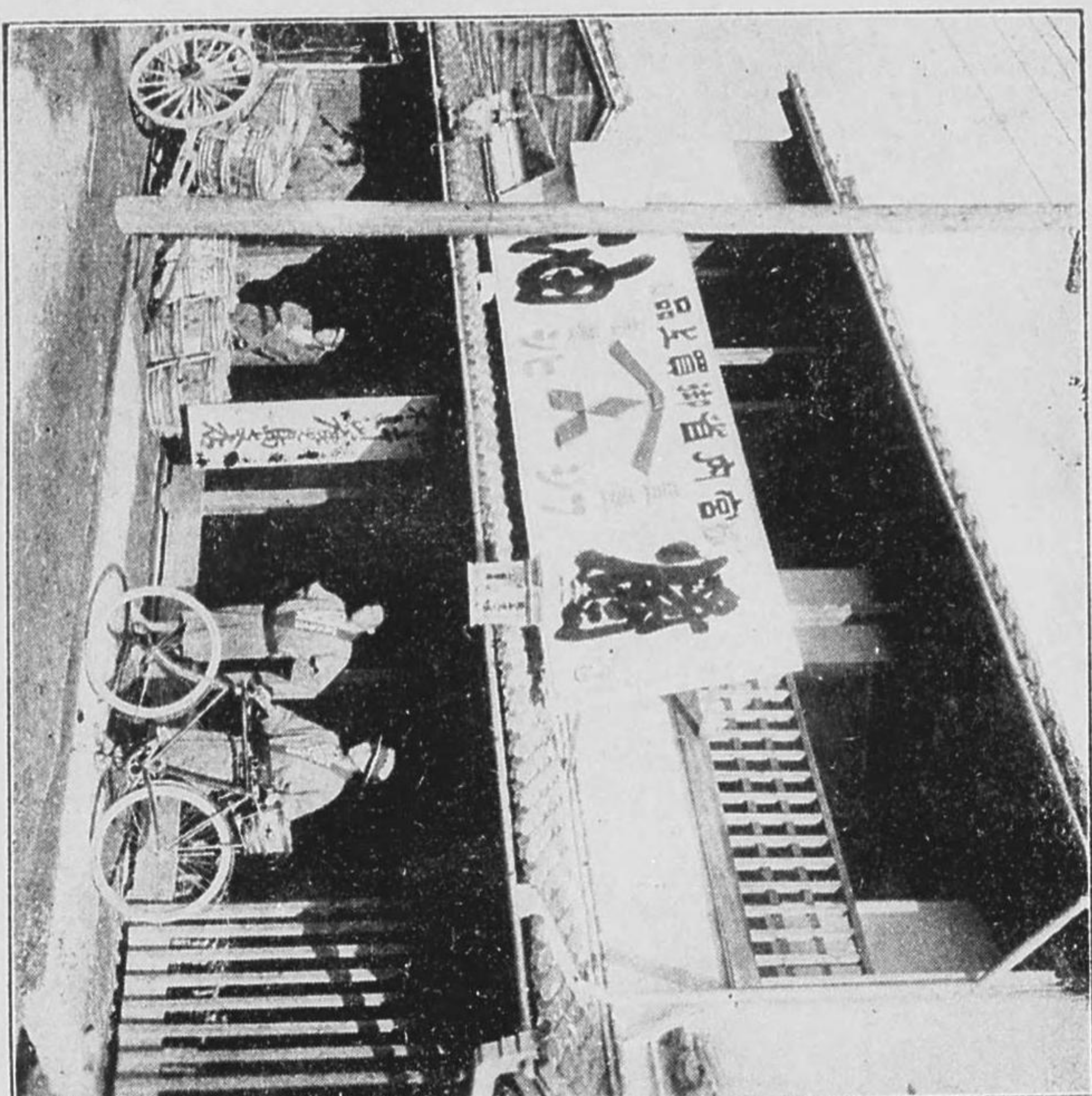
夫



鹿兒島市山崎町  
高見馬場通

發賣元

片山鹿兒島支店  
電話四四一番



熊本市西坪井町  
片山伊太郎  
製造元  
長電六三番

露光量違いの為重複撮影

# カールン並ニ饅頭

蒸物類一  
生菓子類一

## 製造元

鹿兒島市築町野上橋通

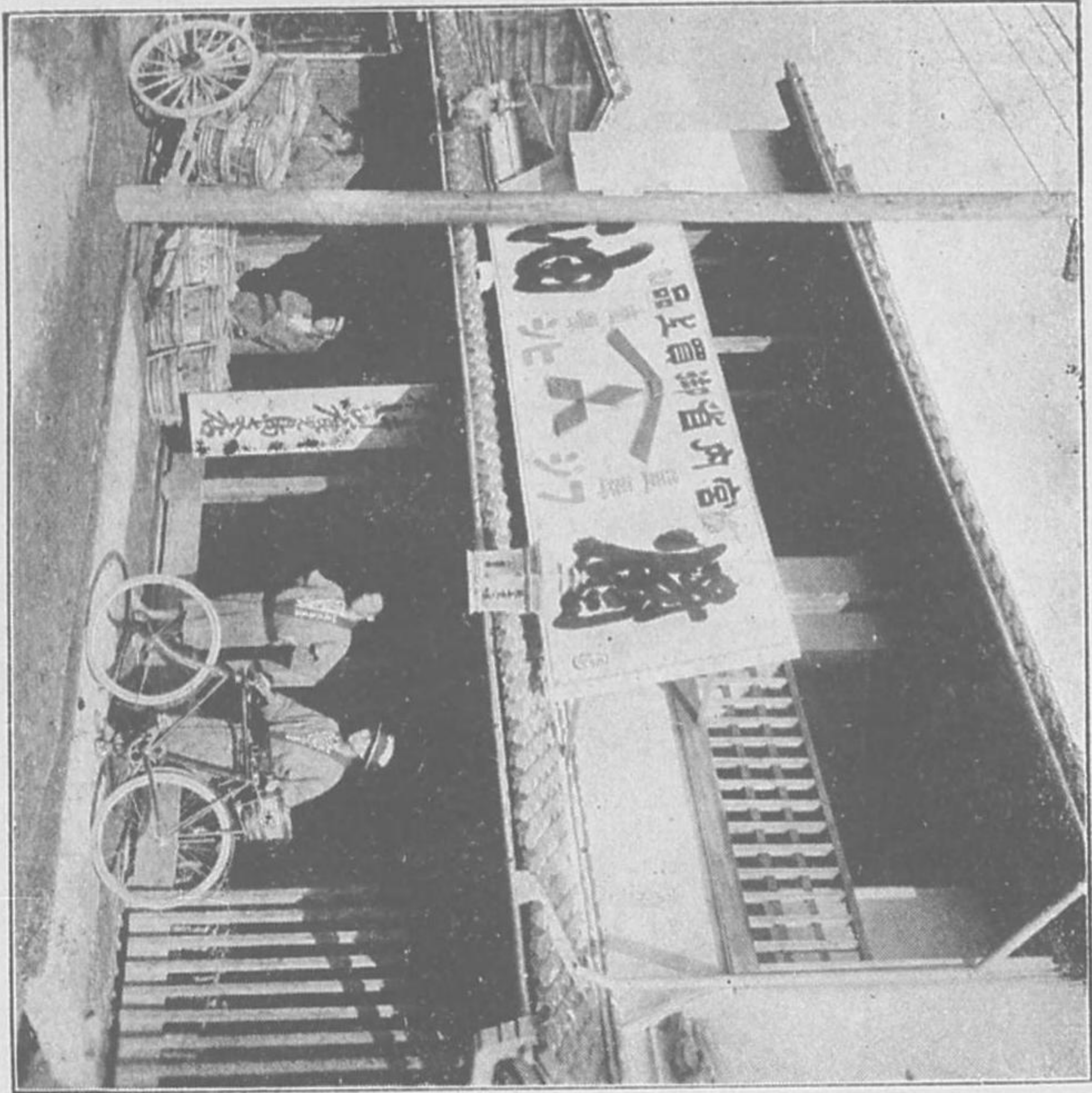
岡村梅屋

大

鹿兒島市山之町  
高見馬場通

發賣元

片山鹿兒島支店  
電話四四二番



商標

登録

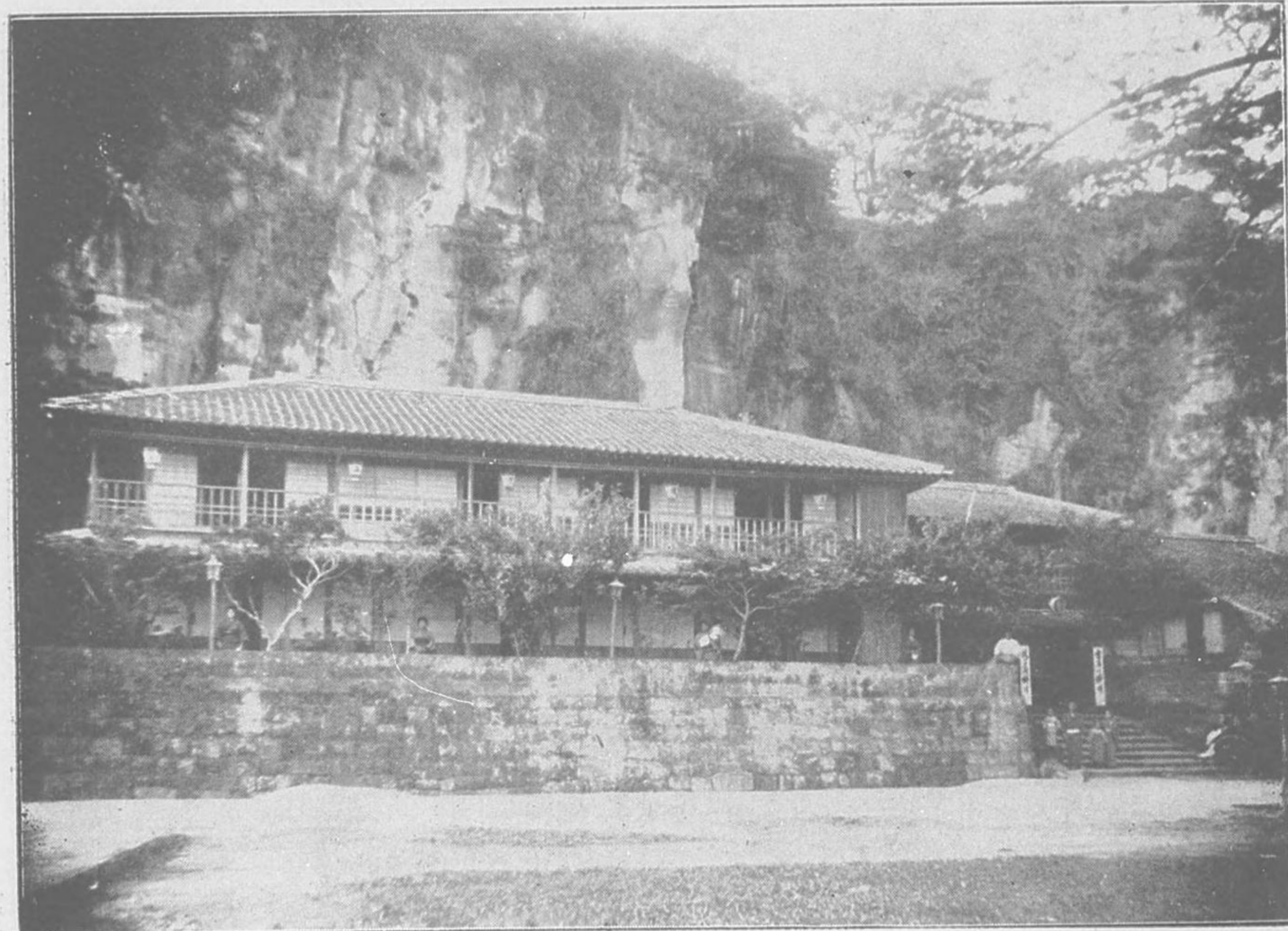
熊本市西坪井町

製造元

片山伊太郎  
長電六三番

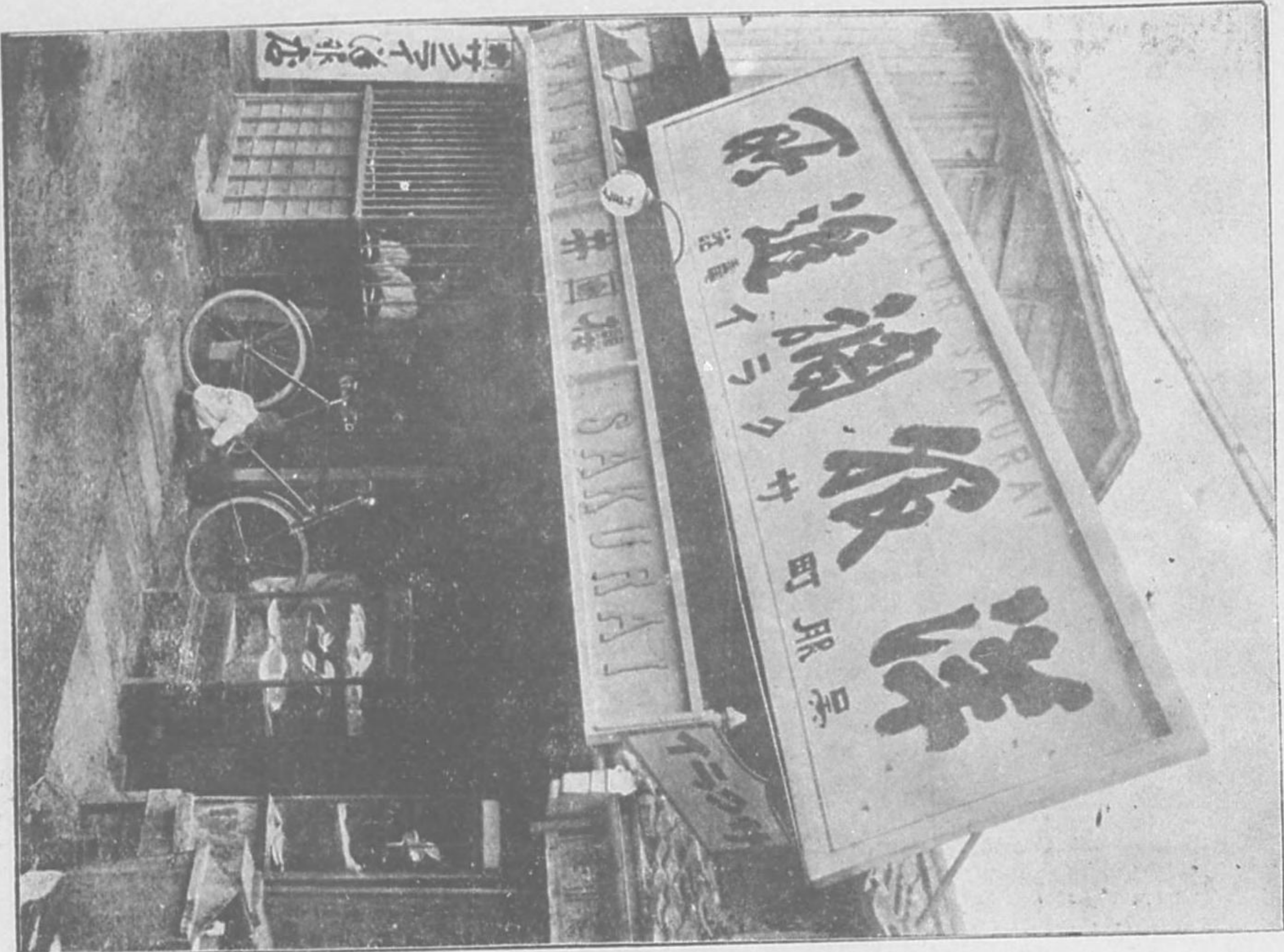
岡村

田之浦祇園前  
三日月



電話架設中

和洋御料理  
うなぎ



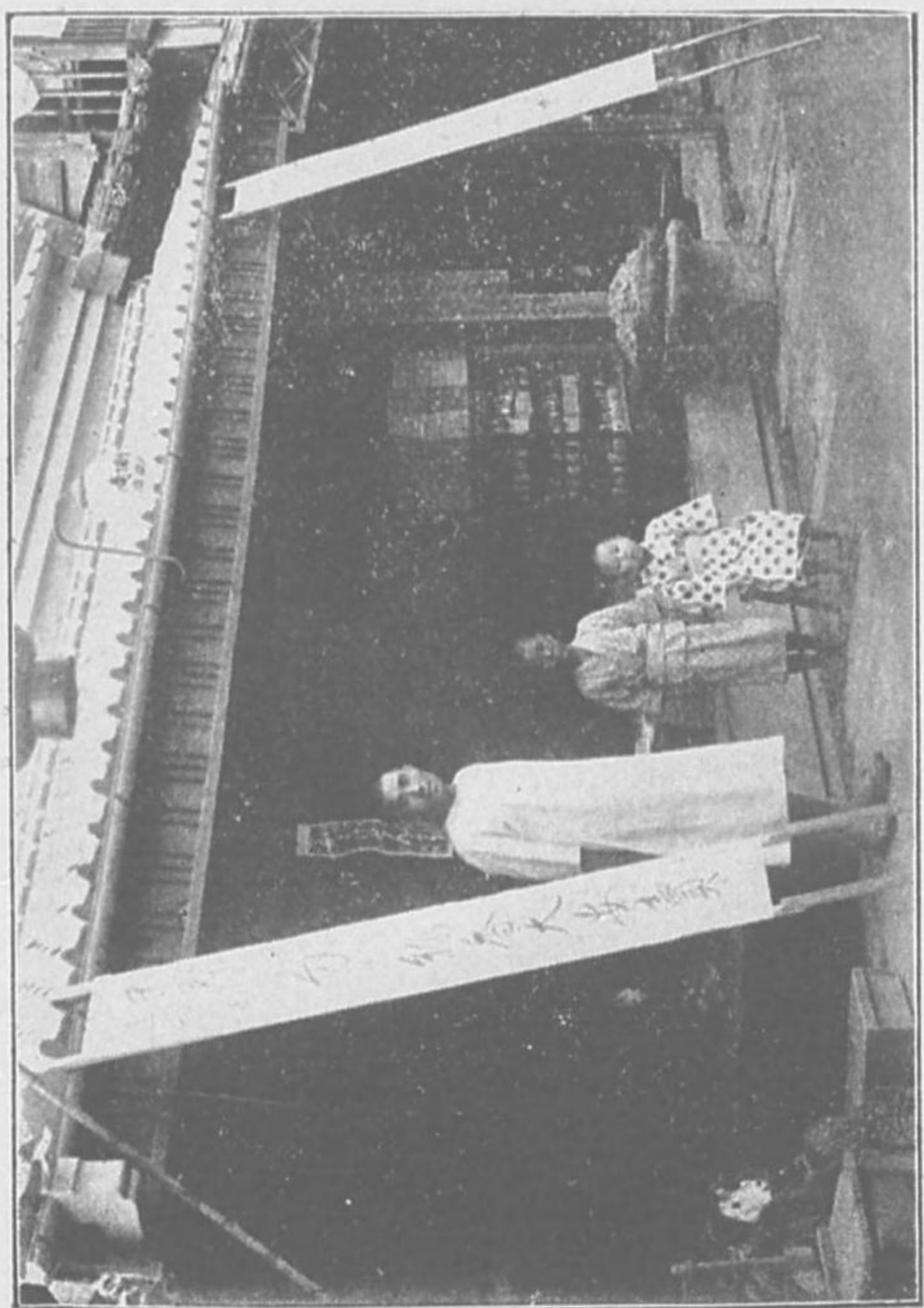
鹿兒島市吳服町 櫻井洋服店

洋服並紳物調進所

燭 蠟 洋 和  
油 香 髮  
他 其 香 線

鹿兒島市吳服町

吉 太郎 吉 森 吉



香 油 商

銘 酒 萬 代



和 洋 酒 類 販 賣

鹿兒島市吳服町 川添嘉吉商店

電 話 百 八 十 八 番

御料理



鹿児島市大門口

玉川樓支店

頁十一

電話一六九番

名産 カルカシ製造元



菓子商 西松葉屋

鹿児島市東千石町舊天神馬場入口

食  
たべ  
つた  
ねく  
來ば  
てみ  
よ  
松葉  
やに

頁十

カルカシ製造の店弊は特別な色なり

藥 種 商 天

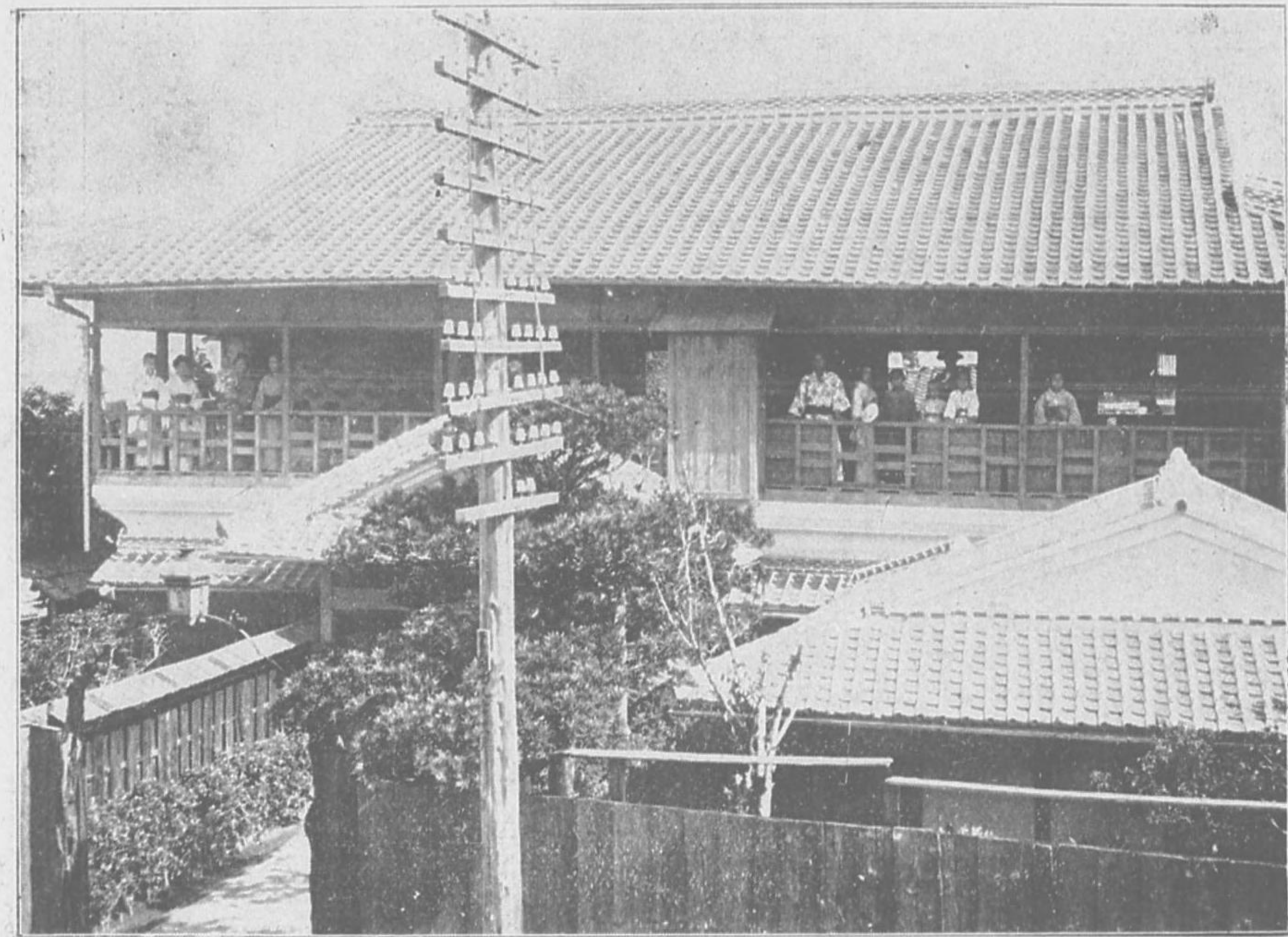


鹿兒島市菩提堂通  
三 開 社

百十三

番 七 五 三 話 電

し ら は み



大門口  
御料理 藤田サク

百十二

番 二 五 四 話 電

商 穀 米 外 内



大島名瀬港 山口支店

陸軍御用達  
樋之口町三官橋通  
山口金治本店

百十五

番八一六話電  
(ヤ)ハ又(マヤ)略電

所 米 精 口 山

社 會 式 株 險 保 命 生 濟 共



鹿兒島出張所

鹿兒島市山下町二四五番戸

百十四

番五六八〇一阪大座口替振 番九三五話電



商靴製等高



鹿兒島市山下町千石馬場通

横山英吉本店

百十七

鹿兒島市小川町專賣局前  
横山英吉支店

中設架話電

子菓御洋和 流風製特



鹿兒島市築町海岸通錦江橋南角  
大東京堂

百十六

和洋食品

郎太榎西大 主店

御 旅 館

鹿兒島市山下町 東陽旅館

百十九



眺望絶佳 夏季清涼  
懇切丁寧 器具清潔

電話 三九八番

佛壇。數珠。牌位。佛敎書籍。其他一式



鹿兒島市仲町西本願寺別院前  
梅田佛具店

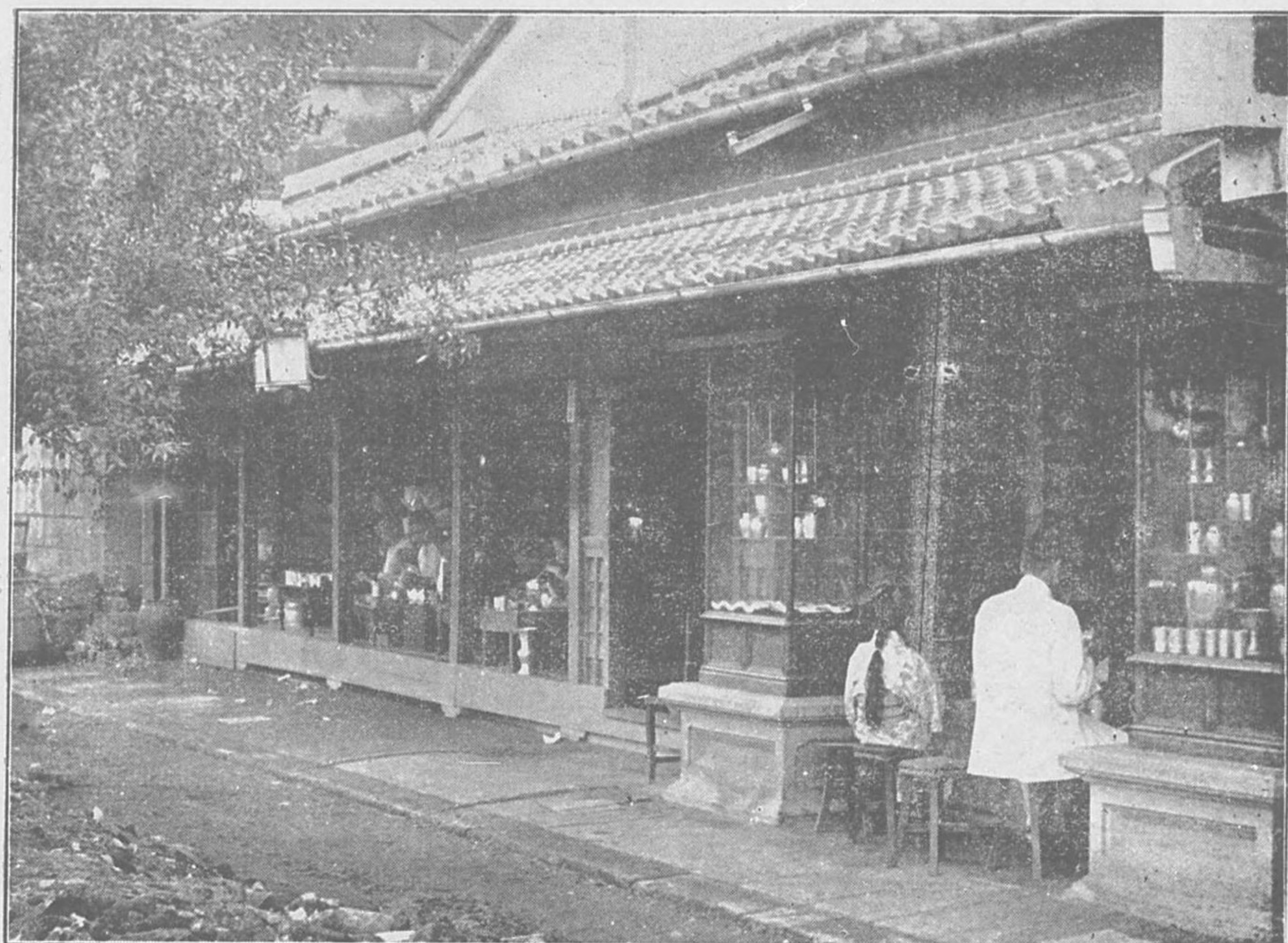
鹿兒島市仲町西本願寺別院前

百十八

鹿兒島市六日町朝日通

星山武八郎商店

### 錫器製造販賣元



番三一五話電

東宮殿下 特別賜御買上光榮



鹿兒島市六日町朝日通  
番三一五話電

第二回五二品評會壹等賞受領  
 第二、三、四、五回內國勸業博覽會褒狀受領  
 第一回鹿兒島縣製產品々評會壹等賞受領  
 第六回內國物產品評會進步銀牌受領  
 第七回內國製產品評會有功銀牌受領  
 第十三回九州沖繩八縣聯合共進會二等賞  
 日英大博覽會銀牌受領

錫器製造販賣元

星山武八郎商店

商 貨 雜

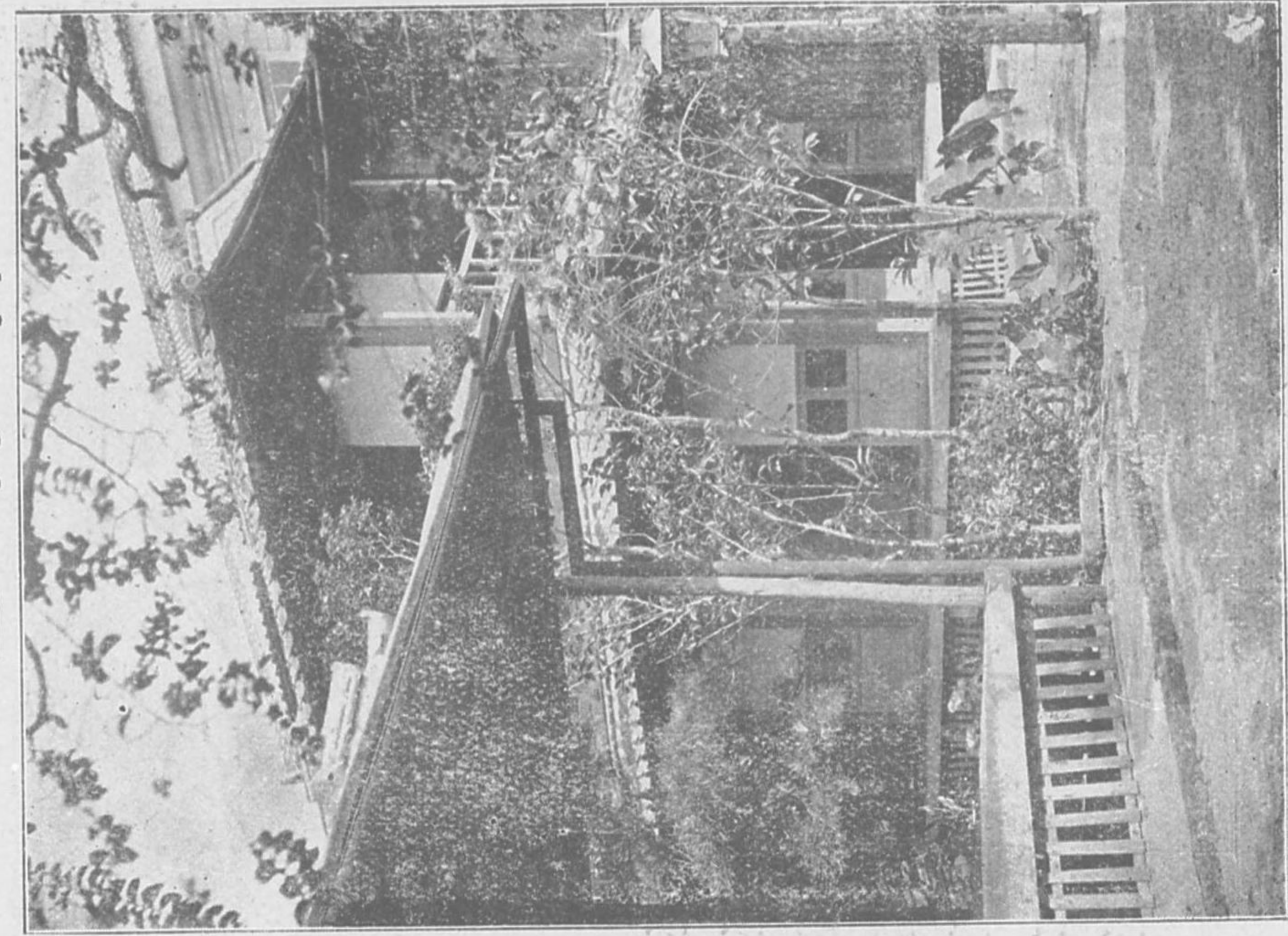


鹿兒島市西千石町千石馬場通  
前野新吉商店

百二十三

々種他其。類酒。油石。糖砂

松 家  
松原町(大門口)



御 料 理

番五十七七話電

百二十三

朝鮮大豆直輸入販賣專業部



電話架設中

鹿兒島市堀江町菩薩堂通  
横山榮三支店

百二十五

銘酒有薰正宗發賣元



內外酒類諸罐詰卸問屋

鹿兒島市中町  
電話四四五番

首藤支店

百二十四

鹿兒島市樋之口町百十番戸

# 山本染料商店

## 染料洋藍工業用藥品問屋



電話架設中

### 山本染料商店營業品種目

#### 人造肥料

アリザリン染料  
 直接硫酸鹽  
 基性染料  
 酸性染料  
 雜特屬染料

#### 天然染料各種

顔料（繪具及レッキ類）

#### 人造藍

純粹青藍SL及SB  
 青口純藍G粒狀

精練用（絹練練及石鹼類各種）

#### 工業用藥品各種

染工用器具（形紙小道具刷毛伸子）

（メートル其他附屬品一切）  
 弊店は如何程少量の御用命にても出來得る限り御便利に御取計可申何卒御愛顧の程伏て希上候  
 弊店には試染量の設備致し居候間隨時御利用被下度候

鹿兒島市樋之口町

# 山本染料商店

振替貯金口座番號一六六九



商靴製等高



鹿兒島市山下町裁判所西角  
 櫻井兄弟商會  
 鹿兒島市高麗町高麗橋南角  
 櫻井製靴支店

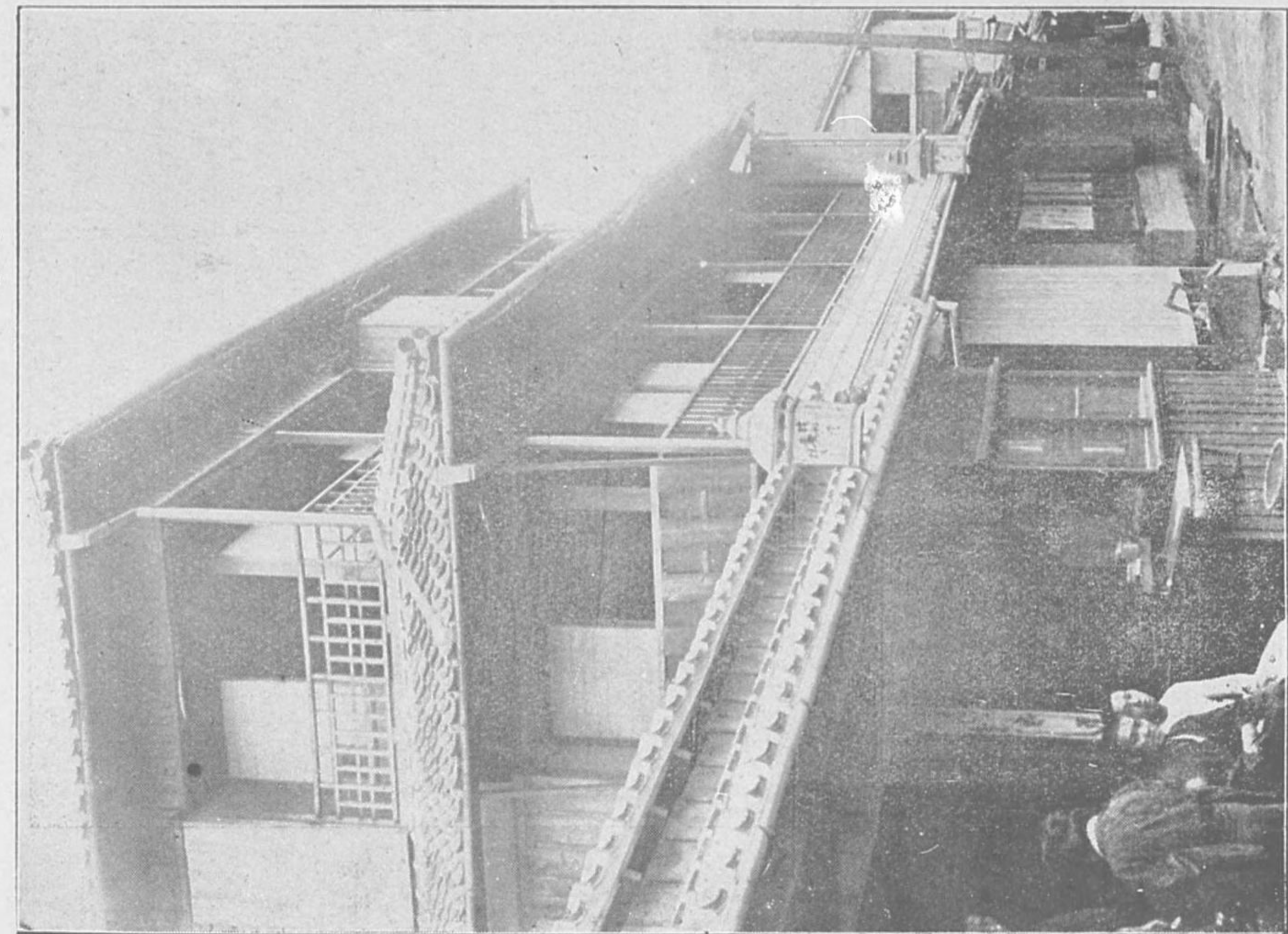
百三十一



(廿〇)號略信電 番六三四話電

鹿兒島市東千石町 じろは樓

御料理



番〇四六話電

百三十一



鹿兒島市住吉町石燈籠通

運送業



共進組運送店

高琴洋服調進所

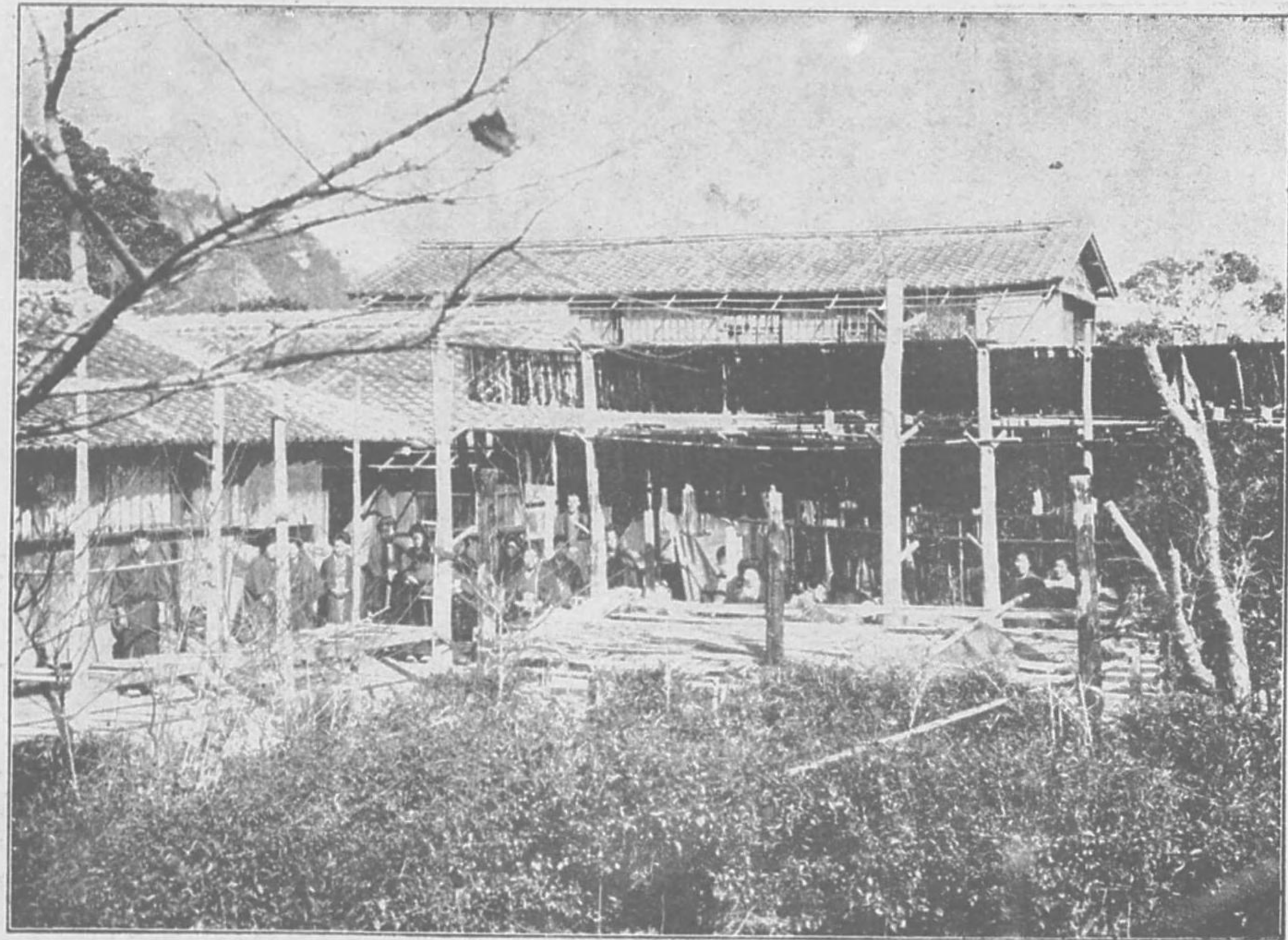


吉村洋服店

鹿兒島市山之口町郵便局前

電話二千七百七番 (シヨ) 路電

大島紬製織專業



電話九二九番

中

鹿兒島市西千石町西田橋側

小幡蘇太工場

百三十五

婦人用小間物一切二毛糸類



電話七八三番

中

鹿兒島市仲町松山通

小幡蘇太商店

百三十四

欠

海産鯉節問屋



鹿兒島市住吉町  
大磯幸兵衛商店

百三十六

電話八六四番 電略(才)又(才)

内外砂糖素麵昆布メケリ粉其他一切



電話千七十二番

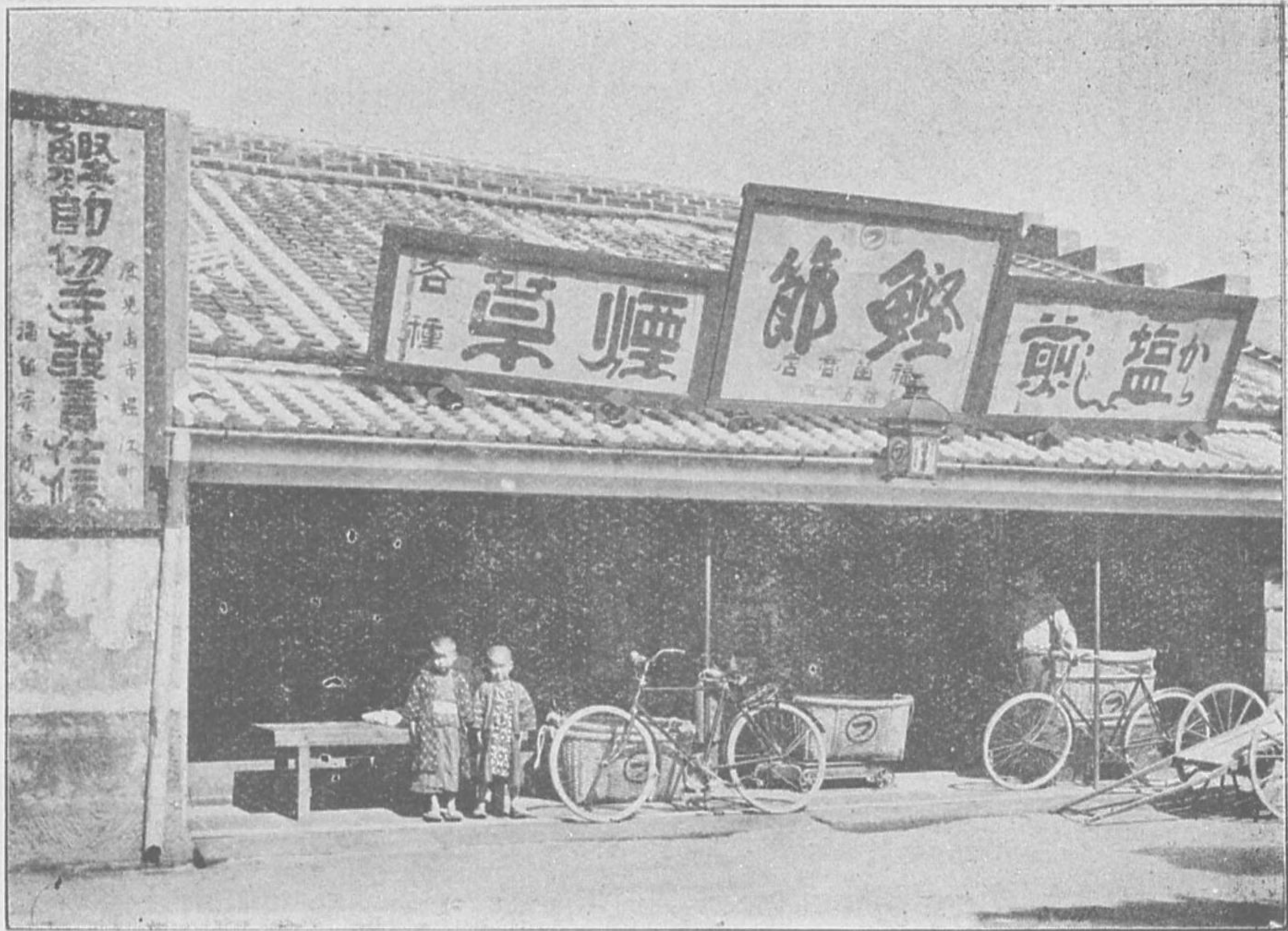
鹿兒島市堀江町  
卸小賣  
松元本店

百四十一

紐育スダダド石油 上松印 勝利印 特別約店

欠

海產物 委託賣買 問屋



鹿兒島市堀江町一三二  
鹿久組

百四十三

電話四五番 電略(九〇)又(八九)

錫器製造販賣元

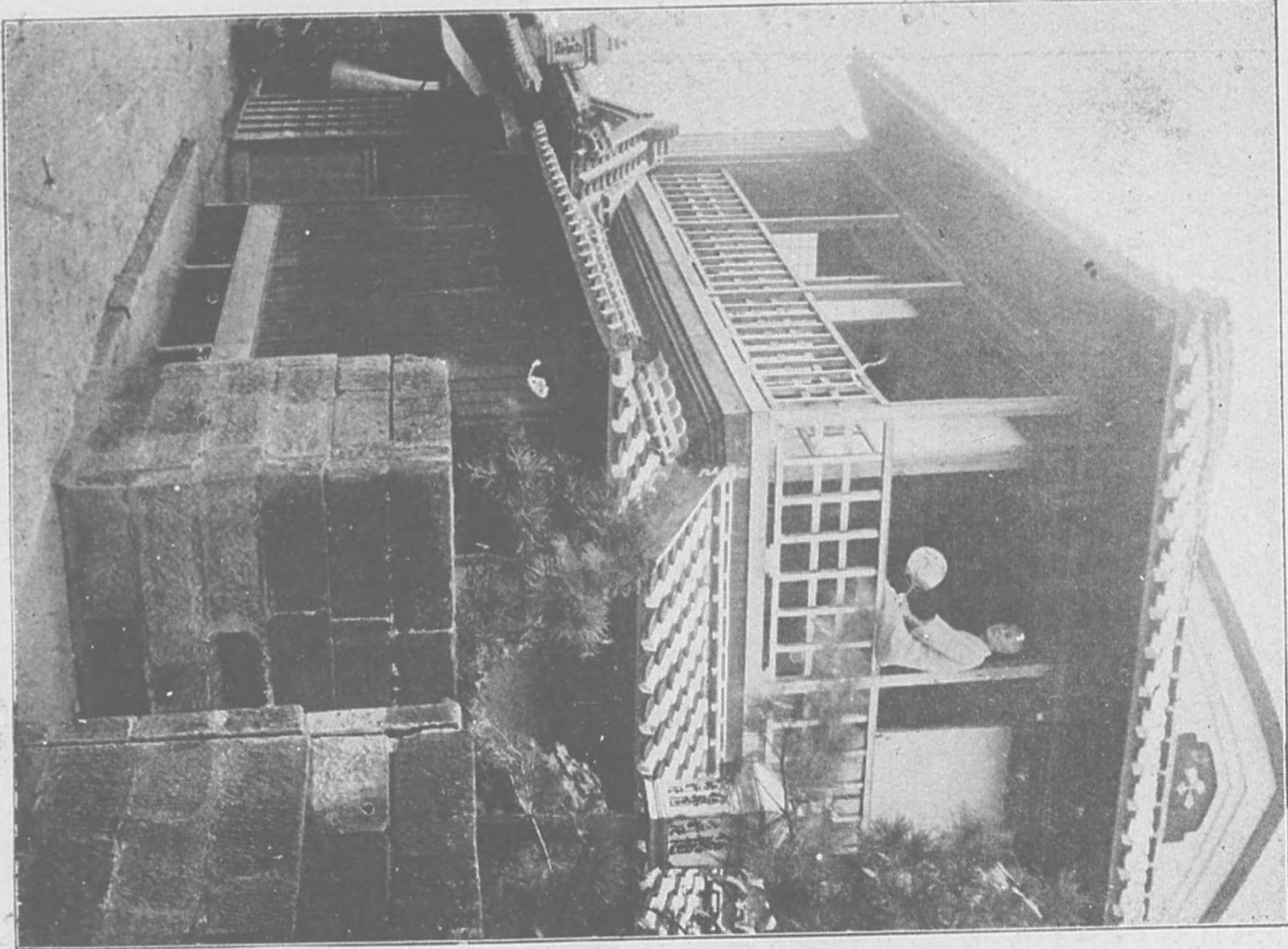


鹿兒島市六日町旭通  
山崎錫器商店

各博覽會及共進會二  
於テ賞牌十二個受領

百四十二

電話八六番



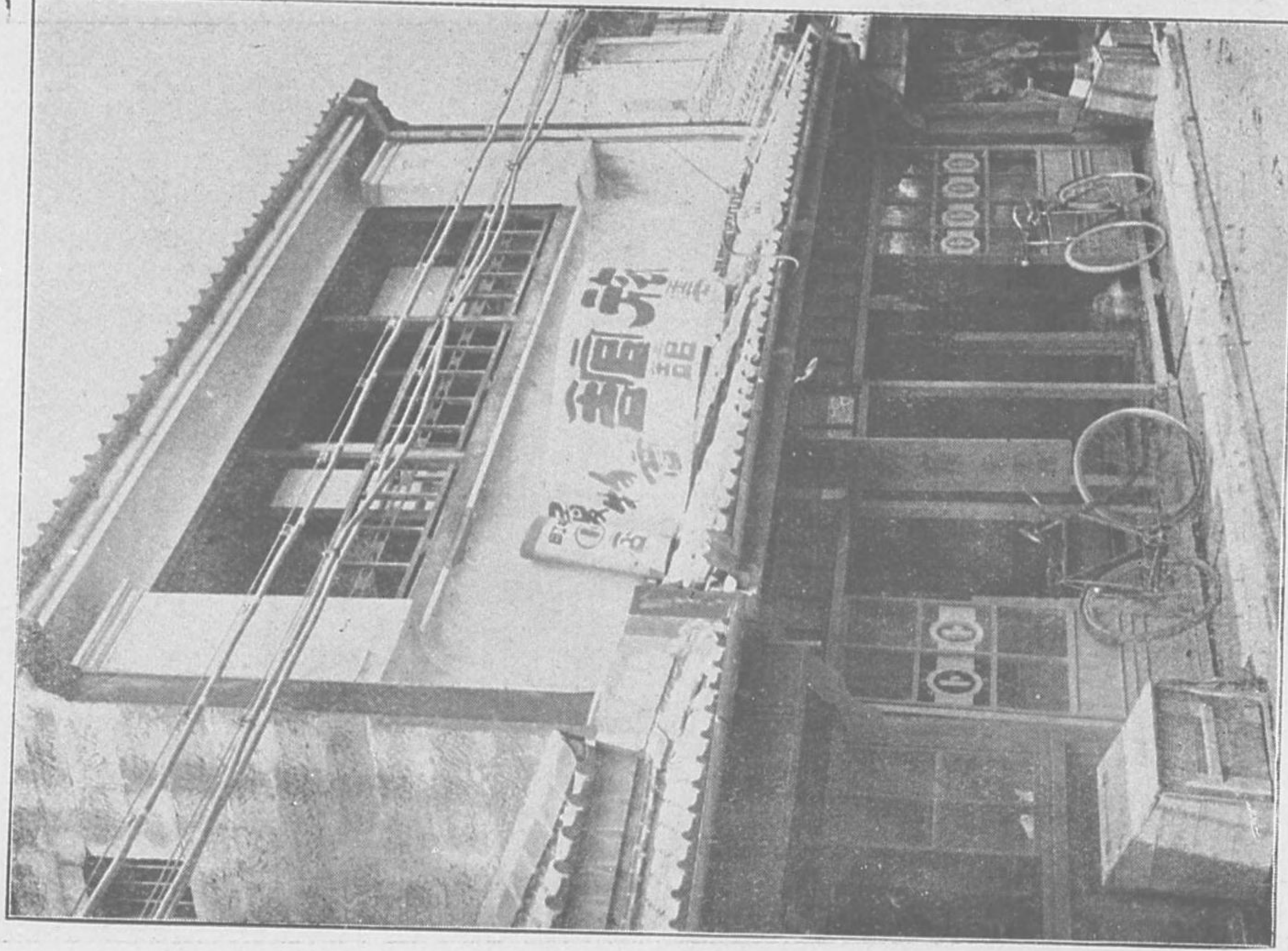
鹿兒島市山之口町 偕樂園

電話架設中 中園マ

四四十四

和洋料理

御旅旅館

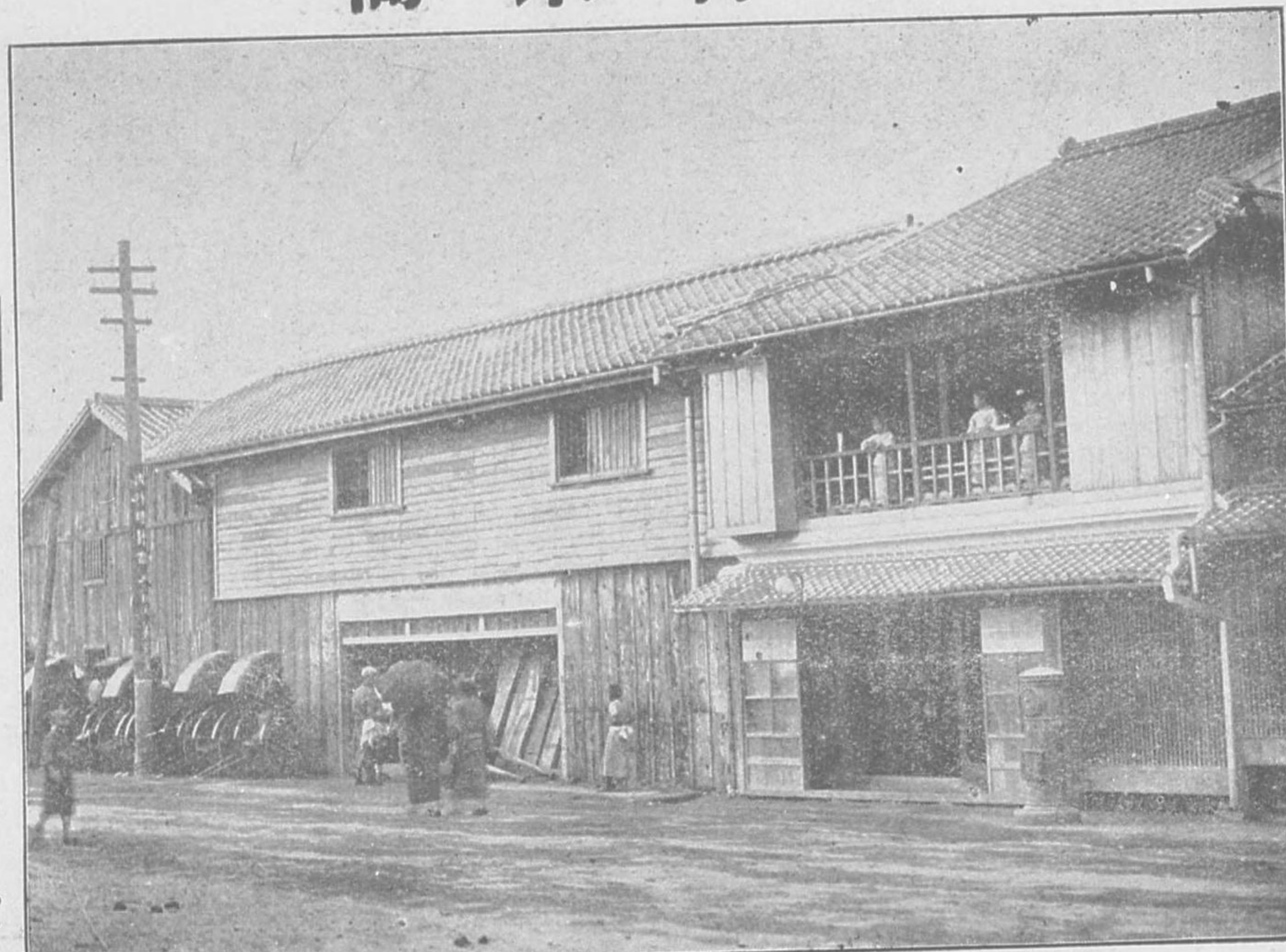


鹿兒島市仲町 紫雲館

電話二八一番

四四十四

商 木 材 板



鹿兒島市  
西千石町

父 海江田材木店

鹿兒島市  
生産町

外 山 本 店

電話 二五七番

百四十七

店賣販板杉印<sup>®</sup>社會材製田秋

燒 鋤 肉 正



鹿兒島市山下町千石馬場入口

清 水 屋

百四十六

助 之 已 府 別

式一類棚列陳臺鏡筒篋二并器漆國各球琉

町生金市島兒鹿  
通町木治加

井上辰次郎商店



番三五八話電  
(エウイ) 畧電

達用御院別寺願本

佛壇佛具一式



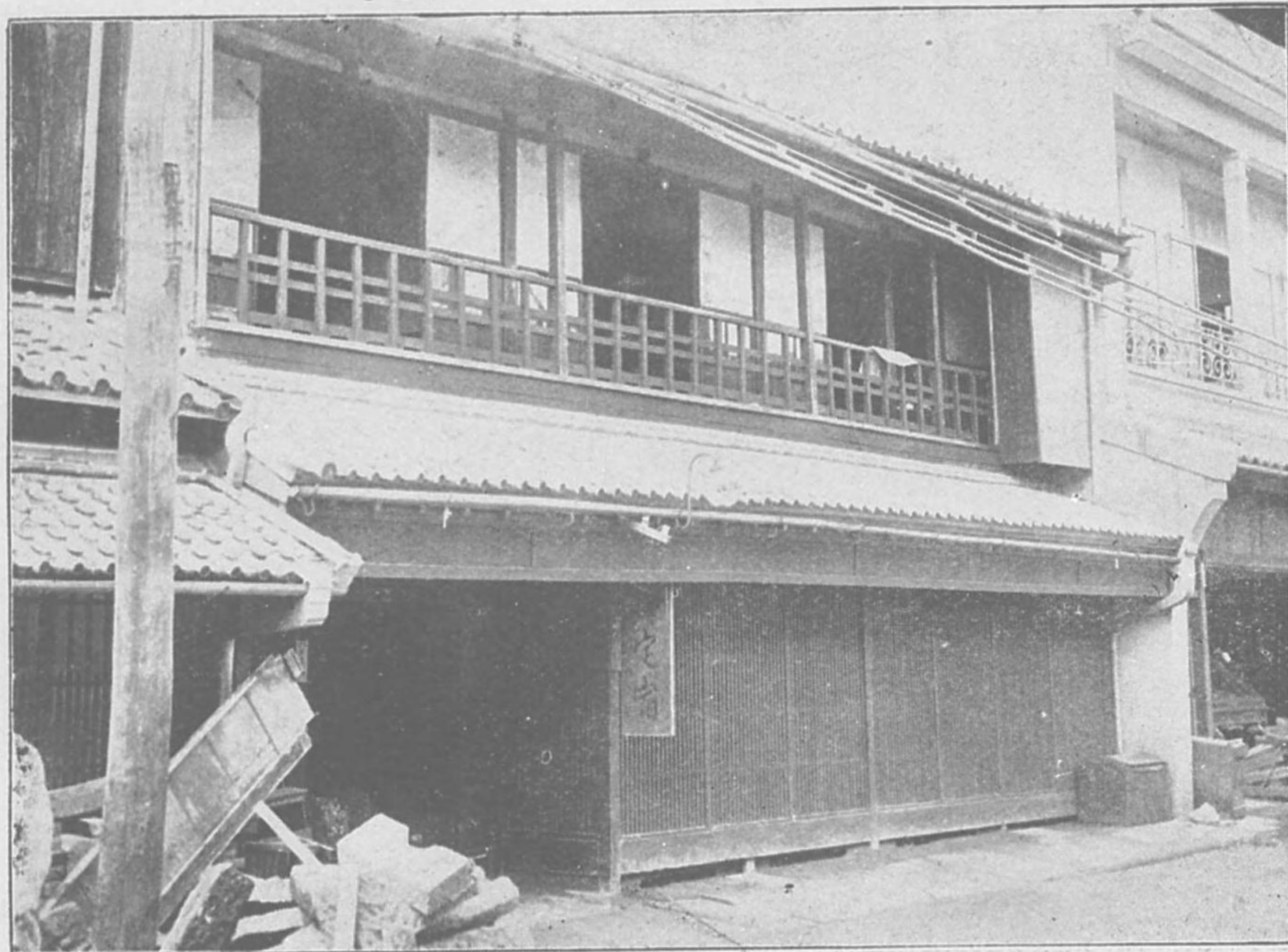
鹿兒島市仲町西本願寺前

上田佛具店

郎三宗田上 主店



館 旅 御



鹿兒島市仲町  
濱田  
タ  
カ

番 二 〇 三 話 電

金 鍍 ル ケ ツ ニ 塗 ル メ ナ エ 並 賣 販 車 轉 自 國 各



鹿兒島市大黒町菩薩堂通廣馬場四ツ角  
上川路友助商店

ス 賣 販 實 確 シ 對 ニ 文 注 御 ノ 湖 江

和洋菓子製造販賣元



生駒菓子舗

鹿兒島市東千石町天文館通

百五十二

美味佳良

生駒豊三

和洋紙卸商



鹿兒島市  
仲町松山通

藤武清藏

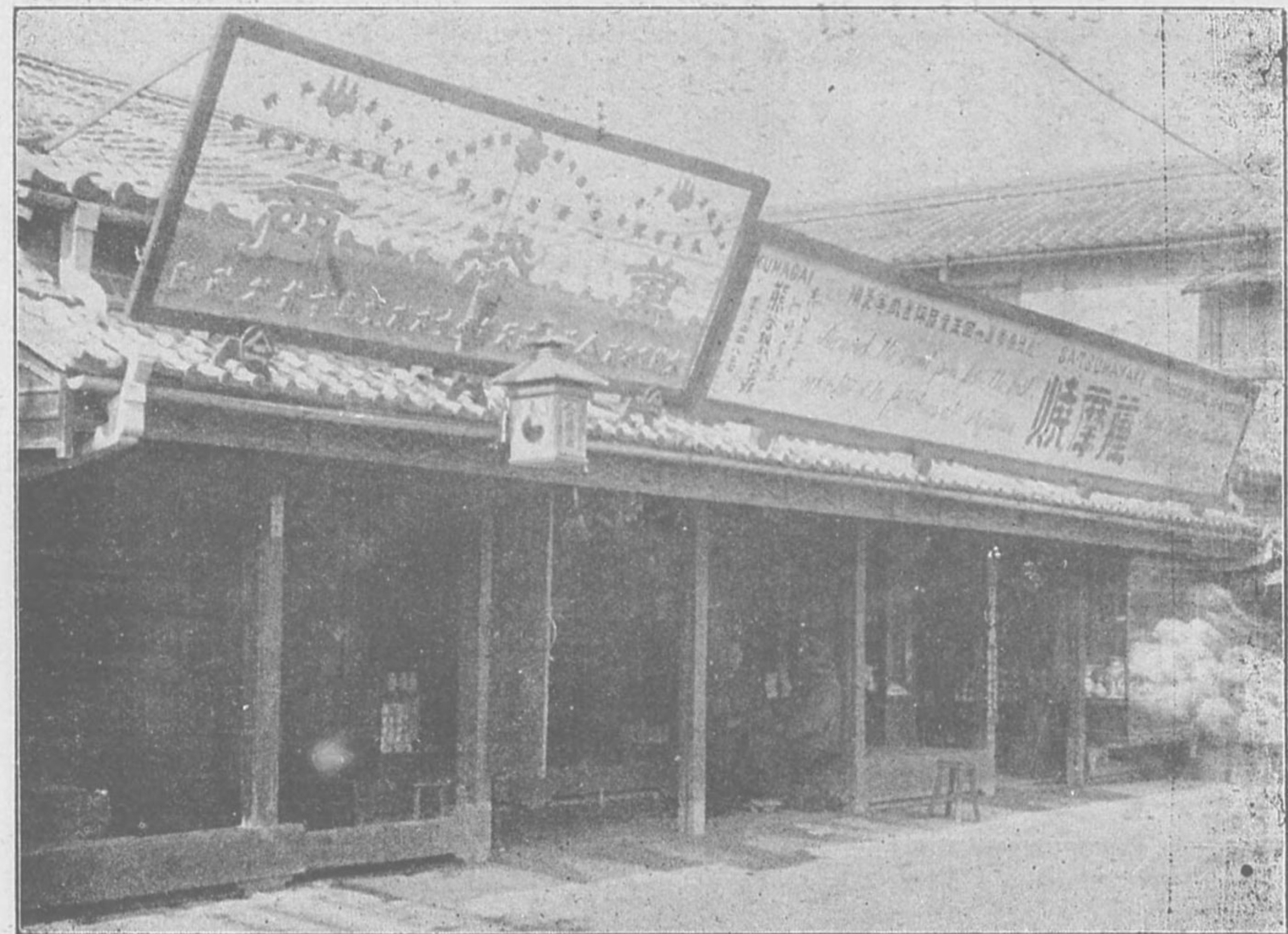
電話八一八番

諸帳簿筆墨類 印刷用品其他

陸海軍  
官衙御用達

百五十三

製漆並金箔粉類附屬品一切



薩摩燒 鹿兒島市州崎竈元

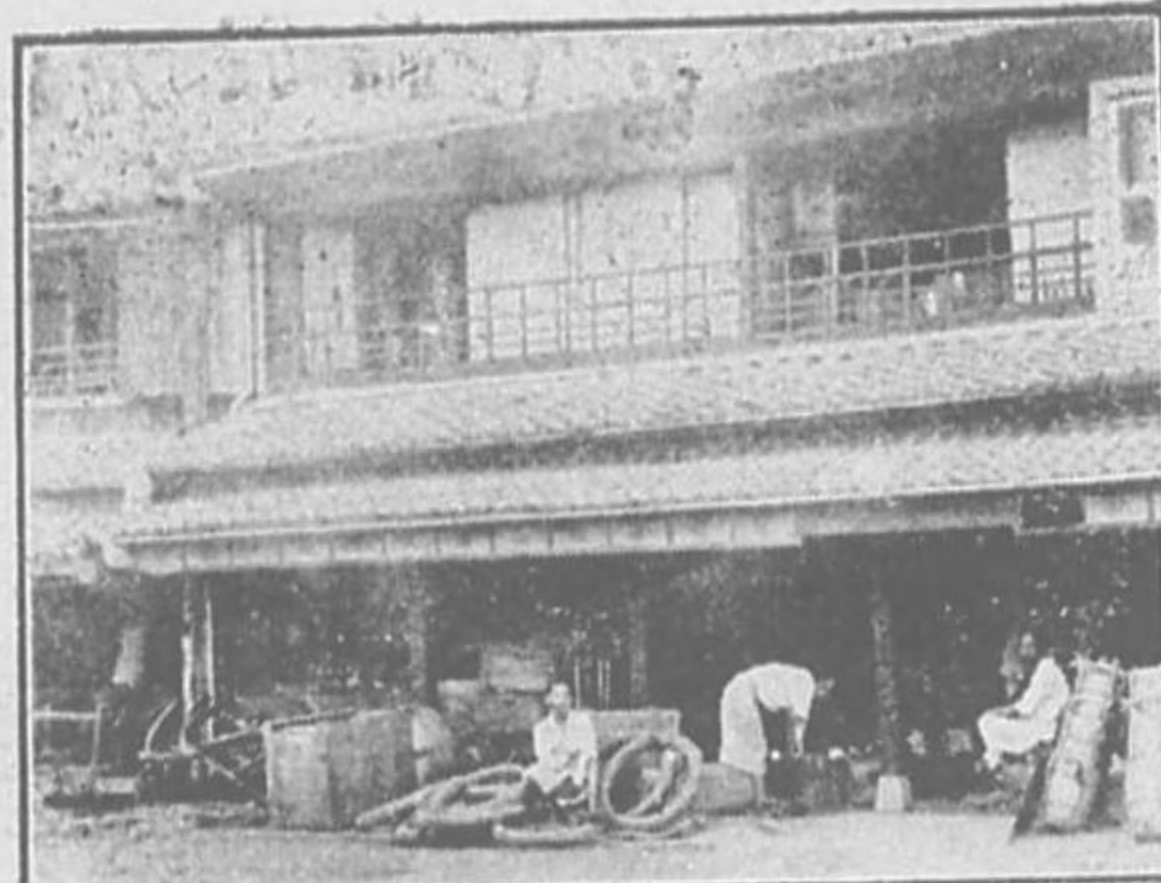
百五十四

電話四四八番

△ 漆商 熊谷政助商店

鹿兒島市吳服町  
福島漆行第一支店

和洋金類製造販賣萬物一式  
鑲山建築水道農具用品メトン諸塗具



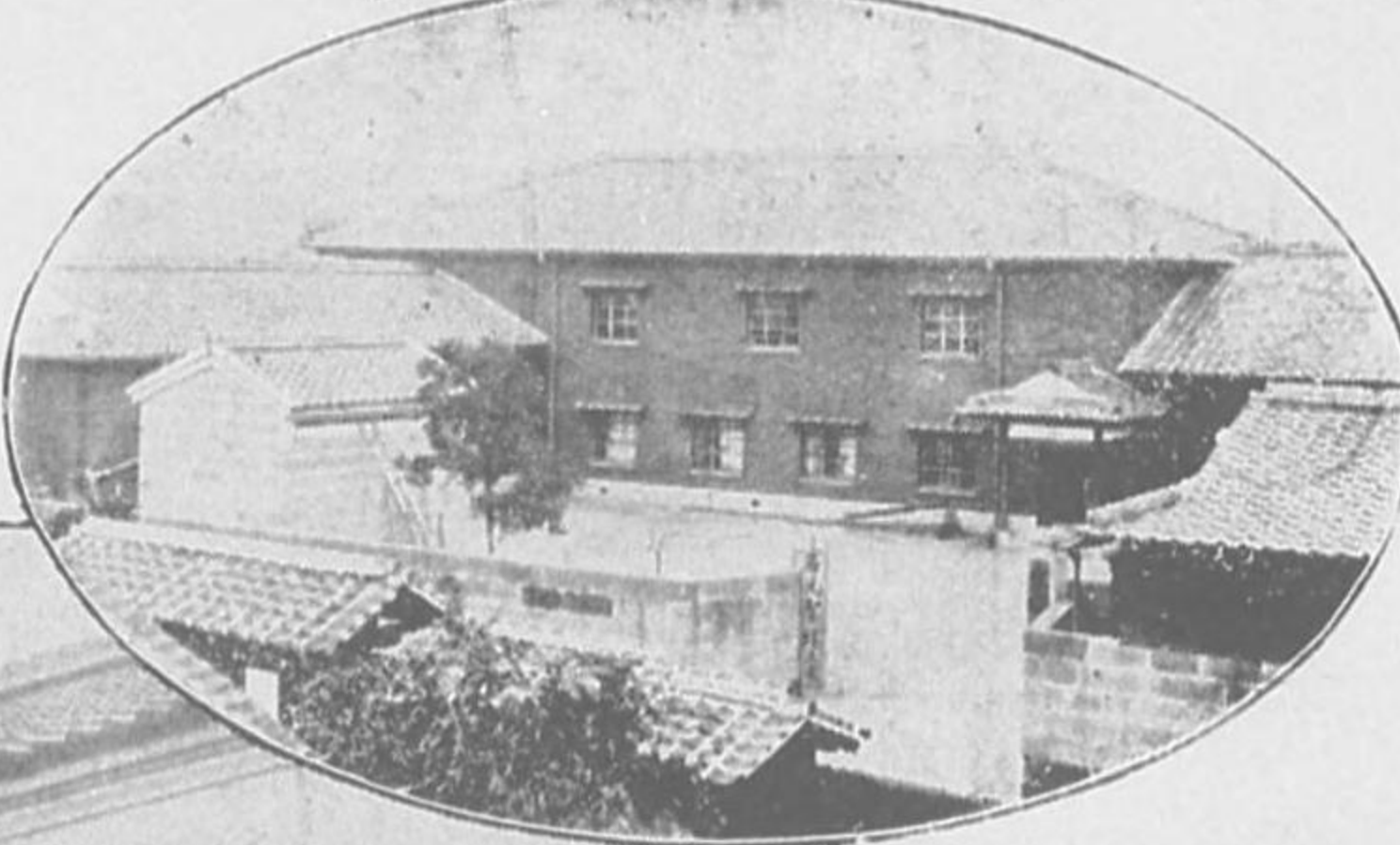
電話 本工部 店揚卸  
番九三一 番八三一 番九三一  
振替 貯金 東京 大阪  
番六四六一 番二二二八

鹿兒島市堀江町石燈籠通

◎ 松 松元宗二

百五十五

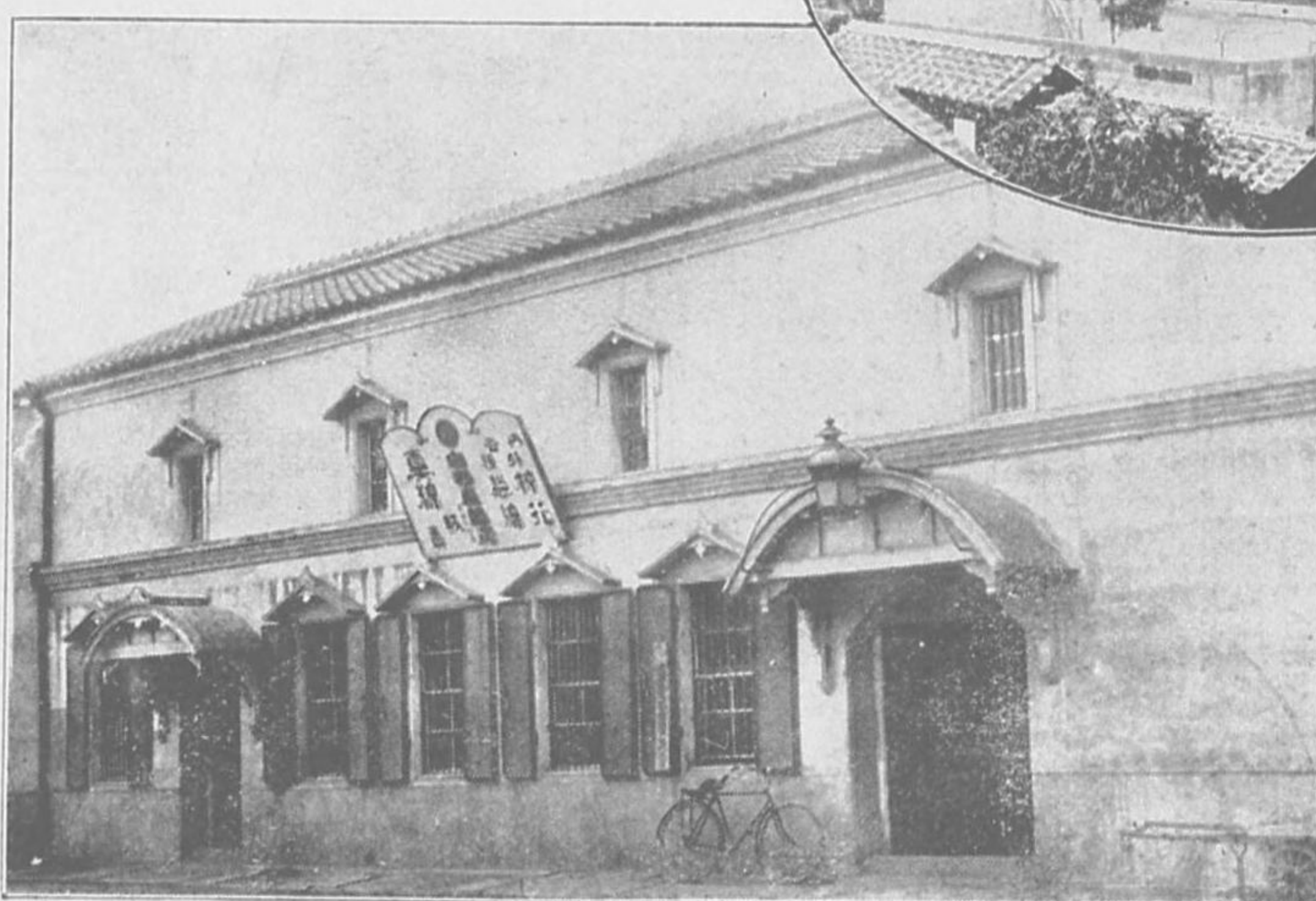
岩元製綿工場



加治屋町二本松馬場

電話六三三番

内外綿花各種製綿並ニ  
眞綿製造販賣元



電話九六番 略電(ハイ)

鹿兒島市中町石燈籠通  
山形屋綿店 岩元貞太郎

れ、彈正に盡く而して曠日の苦戦に多くの愛弟子を失ふ、  
多情なる南洲痛哀堪ゆる能はず遂に意を決して岩崎谷の洞  
窟を出づ、あはれ秋風肅殺たる夕べ、流彈一飛英雄遂に倒  
る、別府晋介涙を揮つて其頭を刎ぬ。實に明治十年九月二  
十四日、享年五十有一歳、後有志此處に終焉之碑を建つ。

南洲翁以下之墓(淨光明寺)

上龍尾町淨光明寺にあり。同寺は元時宗にして開山は宣阿  
彌とて藩祖忠久公鎌倉より伴ひ來たりてこの寺を建立せし  
められたり。五代貞久公に至るまで斯宗を信仰し位牌をこ  
の寺に安置したり、後明治の初年廢寺に際し幸に此の寺の  
みは其難を免れしも規模を縮小せられて今はその面影を忍  
ぶよすがもなく僅かに同名の一小寺を残すのみ。昔は松峰  
山とも呼びて松樹多く茂りたる由にて「遊行四十四世尊通」  
にも見ゆ。東京上野の公園に建てたる南洲銅像に模造せる  
木像を安置し、屋後に翁以下桐野、篠原、村田等丁丑役薩  
軍勇士の墓壁あり、地高くして鹿城を下瞰す。

遊行四十四世尊通

ひろめ行く法のしるしに植ゑ置きし

松も昔を思ひ出づらん

赤塚一遂

十かへりの半は過ぎてまださかぬ

花をばまつの峯の古寺

明治四十三年九月七日、即ち此の稿を草するの日、日韓併合南洲翁奉告祭を施行せられ、薩隅日三州の有志相集まり墓前に拜告するもの俯仰今昔の感に堪へず、此際有志の間に拜殿改築の議あり、其費用四萬五千圓を要すべく、その寄附金募集の負擔額は市壹萬貳千圓、郡壹萬五千圓、宮崎縣其他府縣壹萬八千圓なりと云ふ。

月照上人之墓

松原町南洲寺前にあり。石壁を以て繞らし樹木を植ゑ中央小高き所に墓石あり、墓面に『靜溪院鑿水清月比丘』と刻し、裏に行年四十六歳と彫る。上人は京都清水寺の住職たりしが勤王の志を抱いて夙に南洲翁と志士に結び、安政の大獄起るや身を以て遁れ馬關、博多を経て苦惨の餘入薩して南洲翁に倚りたるも、幕府の追捕急にして行くに處なく、安政五年十一月十六日の黎明南洲翁と相擁して三船崎の沖合に投ず。南洲翁漸く蘇生せしも上人終に歸らず、辭世の歌あり。

曇りなき心の月の薩摩隔

沖の波間にやがて入りぬる

大君のためには何か惜からん

薩摩の瀬戸に身は沈むとも

墓前に二基の石燈籠あり。幾星霜今は水壑の跡も覺束なけれや。

長らへば兎に角命あるものを

すぎにし人の心短かさ

長らふも死ぬるも同じ大君の

御國のためにつくす心は

筑前の志士平野次郎の詠にして其の建立に屬す。明治五年南洲翁冠を懸けて故山に歸り墓參感慨の詩あり。

相約投淵無後先

豊岡波上再生縁  
空隔幽明哭墓前

回頭十有餘年夢

西郷吉次郎之墓

松原町南洲寺畔老松の蔭にあり。慶應戊辰八月二日賊と越後五十嵐川に戦ふて負傷し、十四日柏崎病院に歿す、年三十有六。氏は南洲翁の令弟にして才氣翁を凌ぐものあり。翁の今日の盛名あるは氏に負ふ處尠からずと傳ふ、側に南洲翁兩親の墓あり。

横山安武之墓

池之上町福昌寺境内にあり。故文相森有禮氏の令兄、當地府學教授横山安容氏の養嗣子たり。當年朝廷百官の遊蕩關奢事を誤る者多きを慨し、明治三年七月二十七日集議院に至り十箇條の建白書を其門扉に掲げ悠々として自刃に伏したる血性男兒なり。朝廷氏の至誠を諒し祭料百圓を賜ふ。遺骸は東京大圓寺に葬り遺髪を此處に埋む。碑文は南洲翁の撰也。

城山公園

城山の半腹にあり。慶長七年島津忠恒公、大龍寺内城を去つて其麓に鶴丸城を築く、樹木森立して土地高く、全市は眼下に展開せられ、前に錦江灣を俯瞰し、碧波の上に浮漂する櫻嶽の白雲を望む等四季を通じて風光頗る絶佳なり。敷多の旗亭あり茗を啜るべく酒を命ずべし。園内幾多の紀念碑あり、曰く明治二十四年五月六日露國皇太子殿下の來魔、曰く明治三十九年三月三日英國皇甥アサー、コンノード殿下の來魔、曰く亡友碑、曰く英國名醫ウリアム、ウリス氏頌徳碑との重なるものなり。

○城山公園

神田抱琴

香雨艶雲春不春

名園徐步獨傷神

先公鍾愛花如舊

空澆紅裙冷履塵

○雜 咏

百二都城秋色高

一聲鐵笛滿江阜

南溟半夜魚龍舞

月照海門千尺濤

東福寺城跡

今は田之浦公園にして島津第六代氏久公、曆應四年四月大隅肝付の一族を退けて當城に入り居城と定む、これ島津家鹿兒島居城の最初なり、其子元久公父の志を繼ぎ近く清水城を築きて之れに轉ず。其山腹には文久三年英艦來寇時の東福ヶ盜臺場の殘礎あり。

福昌寺

池之上町にあり。齊彬公、久光公以前數代の墓地にして昔

は玉龍山福昌寺と呼び曹洞宗の寺院也。島津家七代の主元久公應永元年有名なる石屋眞梁和尚を招きて建てしめたるものにして、本寺は後奈良帝の勅願所にして西國諸侯の崇拜者も多かりしが、今は其跡存するのみ、境内は景趣に富み、十二の景致を選んで支那僧高泉に詩を賦せしめたる事もあり。

大龍寺跡

今龍尾町大龍小學校のある所なり。天文十九年十二月貴久公清水城より此城に移り嗣子義久、家久公三代の居城たりしが、家久公慶長年間鶴丸城に轉せられしより、城跡に一寺を建設して大龍寺と號し、名僧文之を住持としたり。大龍の二字は大中公と龍伯公との頭一字づつを取りて命名したるなり。

天保山

天保山は市の南甲突川の河口にあり。廣さ拾數町白砂青松の地、天保の末年甲突川浚渫の際その川砂を以て埋立られたる地にして、島津齊彬公外國式の練兵を採用せらるゝや此處を以て練兵場となし、海岸近く砲臺を築きて防備に供したりしが、文久三年英艦來寇するや應戰大に彼を惱ましたり。砲臺の殘礎今尚ほ存す。現今は第四十五聯隊の練兵場となり、市内の學校運動會又多く此處に行はれ、時々市民閑を偷んで清遊を試みるもの少からず、松籟、濤聲、その古を語るが如し。

松原神社

松原町南林寺跡にして寺は島津家第十五代貴久公の建立に係り、今は松原神社と稱して貴久公並に長子義久公の靈を祭る。貴久公は三州麻の如く亂れて島津家の基礎動もすれば搖かんとするとき、伊作家島津氏より入りて藩主の嗣となり、父日新公と共に萬難を排して三州の風雲を統一し、徳政を施いて島津中興の業を樹てたる稀世の英主なり。

高野山別院

高野山別院は長田町にあり眞言宗新義派に屬して最大乗院と云ふ。今の地は明治十二年の頃前任職草家大仙の再興したるもの、獅吼窟内泉地あり幽石を配し花卉を植う。昔時の大乘院は島津貴久公天文年中稻荷川の畔に創建せられたる大寺にして新義派に屬し、開祖は俊盛法師也。今は門前の橋を残すのみ。

西本願寺別院

西本願寺別院は東千石町にあり眞言宗也。明治九年假説教所を設置したるに創まり、今の伽藍は市中唯一の偉觀、去る二十四年より二十九年まで前後六ヶ年の歳月を費したる建築なり、内部の裝飾は四十年の夏工匠阪地より來たり金光燦爛たり。西南佛教婦人會及び青年會并に圖書館あり。

俊寛堀

仲町御着屋にあり。堀は先年埋められて一基の紀念石碑を建つ、此邊昔は有嶋と呼び、或は王の港と唱へ、甲突川の

河口に當りて帆船繫留せられたりしが、平氏の怒に觸れて鬼界ヶ島に流されし俊寛僧都の船出せしは此處なり。

孝行橋跡

現鹿兒島停車場に近く、昔は行屋路永安橋より今の停車場の前面を通過する大堀ありて此間に四つの橋を架す、其の一つを孝行橋と云ふ。今は堀を埋めて人家となりたれど、安永五年その橋側に一石碑を建つ、之れに孝行正右工門の經歷を彫りて今猶存す。

鹿兒島八景

有名なる勝景の地には八景の詩歌あるを常とす。此の地にも亦たその撰あり、正徳享保の頃の詠草なりとて傳ふるも左の如し。

南林晚鐘 日野正三位中納言輝光卿

かねの音も波にそひくくれふかさ

この山寺は海ちかくして 相國寺前 龍山天啓和尚

無限長洲眼界寬 青松聳碧映波瀾

數聲雁々落來處 恰似天書雲篆看

開開暮雪 東園從三位中納言基長卿

山さく重かさなるうへにあらはれて

ゆうべさやけさみねのしら雪

南浦歸帆 前等持院觀溪西堂承願

泰屋成村南浦磯 日沈烟浪片帆飛

漁翁亦是知其止 釣得遠山佳景歸

櫻島秋月 樋口從三位康熙朝臣  
秋毎の光りを花と月やすむ

島は櫻の名にたてれども

大磯夕照 即宗院龍昌西堂

江山鍾愛大磯晡 映帶殘紅勝畫圖

若使蘇仙入茲地 賞心須是換西湖

田浦夜雨 烏丸從五位下右少辨光榮卿

打ちよする磯邊のなみもしづかにて

ゆふべさびしき田の浦の雨

多賀晴嵐 即宗院龍楚西堂

雲散晴嵐明萬波 日光相映海山阿

宮前滿目好風景 不盡家珍雅興多

櫻島

錦江の波上に突如として聳えたる優秀なる櫻洲の姿は、實に鹿兒島市の風景をして一異彩を放たしめ、その四季の變幻極りなき幽佳なる眺望は亦た多く其比を見ざるなり。櫻島には温泉あり、枇杷、桃李、大根、煙草の名産あり。獨逸大使の所謂「天使が一夜に造り上げし櫻島」の價値は温泉の有無、産物の多寡に依りて一毫も加減せざるなり。蓋し櫻洲に最も尊ぶ所ものは歴史なり、即ち古今名家が目に映せし櫻島觀こそ、島陰の眞價を定むるの斷案たるべし、今頼山陽の櫻島觀に曰く

櫻山突立海灣間

一碧瑠璃擎髻鬢

鹿子城中家幾萬

無愁不納紫屏顏

島陰漁唱を以て、日本宋學の開山を以て、有名なる桂菴禪師の如きも、櫻島には頗る傾倒したりと察せらる、其詠に曰く。

○ 一二三山千万峰

浮空積翠暮光濃

島陰絕景倩誰畫

浦々烟枯船入松

○ 万頃蒼波白島濱

中流向島一由旬

櫻窓穩坐回頭見

宛是廬山面目眞

其他幾多の學者によつて櫻島を詠せられたるか擧げて數ふべからず。

歌和

細川 幽齋

○ しのしへに誰か言ひけん櫻島

つくしの海に富士を浮かして

○ 月雪のみるめのみかは櫻島

冷泉爲村卿

○ 涙の花さくゆふべあけばの

島津龍伯公

○ 春にこそ櫻島とはいひつらめ

島津龍伯公

○ 時雨るゝ今日は紅葉ならまし

島津龍伯公

○ 夏ながら時雨れて見ゆる櫻島

島津龍伯公

○ 波のぬれ衣きてやはすらん

西行法師

○ 夏ながら時雨れて見ゆる櫻島

西行法師

○ 波のぬれ衣きてやはすらん

西行法師



遊行 尊通

名にめで、世は冬ながら櫻島

花にぞまがふ雪のわけほの

俗 謠

讀人 不知

花は霧島煙草は國分

燃えてあがるがさくら島

○

光 久 公

大よめじやうだてこぎめすかうすげしやう

かのこ帯してすそは立つ波

○

頼 山 陽

おごじよ達一寸出て見やれ櫻島

すたんばらから月がはつてた

○

遊行 西門

冬もみるころの花やさくらじま

### 娛 樂

薩摩琵琶——生花——茶道と盆栽——劇場と寄席

料理店——藝妓——遊廊

本市が遊覧の勝に富める事は前述の如し。更に娯樂の機關大に備はり、激務繁用の餘暇遊樂を恣にするを得べく、又以て旅客の情を慰むるに足る。

### 薩摩琵琶

明治維新の頃明州、寶鏡、徳田、新保の名士出で、琵琶を善くし、常に之を擁して客情を慰めたりき、明州及び徳田は各々獨特の歌調を作出して後生の斯道者に傳授せり。其調節の悲哀の曲に富む所は薩摩琵琶の特徴にして、或は人を悲哀ならしめ或は人を憤激せしむ、之れ薩州人士の心事を歌ひしものかな。明治の半ば頃山岡、有川、檢見崎等の名士相出で、大に斯道の研究を重ね、其氣品高くして興趣の饒なる他の琵琶の及ぶ可くもあらず、現今は最も學生間に歌はれ大に志氣を鼓舞し古今英雄の心事を偲ぶものあり近時東京に於ては専ら學生紳士間に薩摩琵琶を弄するに至れり。

### 生 花

現今は池坊派の生花最も盛んにして時々生花會及び生花講習會を開き益々斯道の發達を計れり。

### 茶道と盆栽

茗を煮るの楽しみは今や頽れたれども、猶ほ釜の鳴る音に心を養ふ人少なからず、又た茶室を有する雅客多し。盆栽趣味は漸く市人間に解せられ、今や盆栽會組織され時々陳列會を催し同好者の縦覧に供し居れり。植木屋として重なるものは青山(山下町)植徳、伊知地(以上新屋敷町)等なり。

劇場と寄席

本市の劇場には稻荷座、中座、明治座あり。市人亦た観劇の趣味に富み客足乏しからず、或は満員札止の好況を呈すること多し。従て舞



南券若辰

臺の設備に力を致せり。川上音次郎をはじめ新派舊派の有名な俳優にして當市に來らざるなし寄席には萬榮席、惠美須

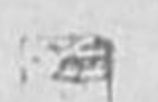
座、常盤座あり。設備の整へる恰も小劇場の觀あり。桃中軒雲右衛門を始め浪花節界の逸物交るがはるの興行に市人の好尚歪變して今や浪花節全盛の時代となれり。

料理屋

我が薩州人士は古より敝衣粗食を以て誇り來たりしも、近時社會の風潮に伴ひ關東地方の美味嗜好に同化され、漸次飲食品の撰擇に意を用ひ、食膳の珍味佳肴に十金を惜まざるに至れり、魚は南洋に之を捕獲し、蔬菜は薩州の野に之を肥し



南券力松



果實は天下の果園として人の羨む櫻島に生熟せり、以て旗亭の料理愈々其聲價を揚ぐるに至れり。是に於て市内料理店は大に發達し其建築の壯大なること實に九州第一なり、



南券玉勇

或は四階の石造あり或は石壁を以て家屋を圍むものあり、近時大に内外の設備に力を盡せり。市内旗亭の重なるもの左の如し

萬勝亭、青柳樓、鶴鳴館支店、ねた福、玉川屋、春日、みはらし、錦江亭(以上大門口)風景樓、山海樓、三日月

(以上田之浦)望海樓、玉川屋、芳野屋(以上御着屋)鶴鳴館(山下町)柳月亭、浩然亭(以上城山公園内)いろは、西海、千鳥、紫明館(以上東千石町)



南券子玉吉

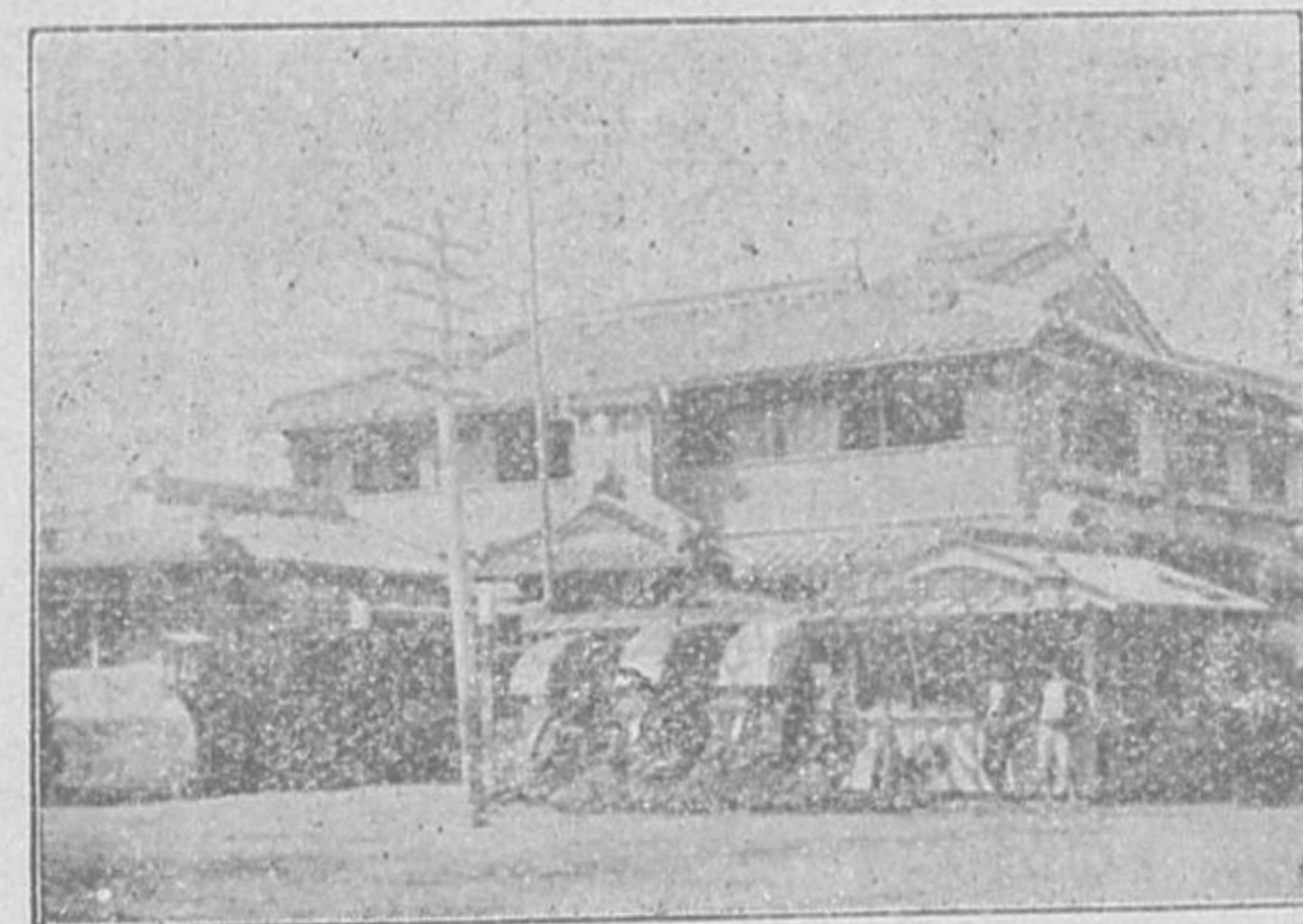
藝妓

本市には南券、西券の二券番あり。藝妓の數は南券に九十

七四  
餘名、西券に八十餘名あり。其産は重に京攝にして、窈窕たる美人の噂あるもの少なからず、彼の技藝と美貌と辯茶羅を以て酔界の花を咲かせ居れり。

遊廊

沖之村にあり常盤遊廊と云ふ。樓敷二十一軒、娼妓三百四十餘人あり。貸座敷及び娼妓取締事務所を設け其取締をなせり。遊廊の地たるや市の南方白砂青松の海濱にあり前に櫻島を望み遙かに三州の遠景を眺む、其の風致佳なること恰と稀なり。今各樓名を記せば左の如し。



貸座席圓成樓

朝日樓、東京樓、品川樓、四海亭、柳屋、色葉樓、圓成樓、鶯樓、一樂亭、大文字樓、金波樓、明月樓、松島樓、東洋樓、若藤樓、若竹樓、三島樓、港樓、東海樓、丸萬樓、大藤樓、(終)

鹿兒島市山之口町入口

岩元愛次郎

砂糖鶏卵  
雜貨卸小賣

アイジンググサン  
石油特約販賣店  
スタンダード

電話五四五番  
番(イワ)又ハ(イ)

福岡縣主催第三十回  
九州沖繩八縣聯合共進會  
一等賞金牌

茶

煎茶製としての國産選品は玉露製としての宇治茶同様天下の逸品なり弊舗は各種共其撰擇に努め一喫洗心の佳品を調進す

鹿兒島市天文館通  
茶舗 深堀香霧園

露光量違いの為重複撮影

七四  
餘名、西券に八十餘名あり。其産は重に京攝にして、窈窕たる美人の噂あるもの少なからず、彼の技藝と美貌と辯茶羅を以て酔界の花を咲かせ居れり。

遊廊

沖之村にあり常盤遊廊と云ふ。樓敷二十一軒、娼妓三百四十餘人あり。貸座敷及び娼妓取締事務所を設け其取締をなせり。遊廊の地たるや市の南方白砂青松の海濱にあり前に櫻島を望み遙かに三州の遠景を眺む、其の風致佳なること恰と稀なり。今各樓名を記せば左の如し。

貸座敷圓成樓



朝日樓、東京樓、品川樓、四海亭、柳屋、色葉樓、圓成樓、鶯樓、一樂亭、大文字樓、金波樓、明月樓、松島樓、東洋樓、若藤樓、若竹樓、三島樓、港樓、東海樓、丸萬樓、大藤樓、(終)

鹿兒島市山之口町入口

岩元愛次郎

砂糖鶏卵  
雜貨卸小賣

アイジングダ  
スタンダード  
石油特約販賣店

電話五四五番  
署(イワ)又ハ(イ)

福岡縣主催第三十回  
九州沖繩八縣聯合會  
一等賞金牌

茶

煎茶製としての國産撰品は玉露製としての宇治茶同様天下の逸品なり弊舗は各種共其撰擇に努め一喫洗心的佳品を調進す

鹿兒島市天文館通

茶舗 深堀香霧園

# 薩摩名産

## カニカニ 和洋菓子

製造販賣元

### 金花堂支店

東千石町天館通り  
電話一〇六四番

鹿兒島市住吉町海岸通

## 濱田卯兵衛商店

電話(ハウ)六二〇番  
電話六二〇番

### 内案品商

砂	内	肥	委
糖	外	料	托
泡	米	雜	販
盛	穀	貨	賣

## 薩摩燒其他各國陶磁器商

鹿兒島市吳服町菩薩堂通角

## 中村陶器商店

電話架設中

### 風景樓 (口繪参照)

風景樓は市の東北、田之浦の海岸にあり、後は青松翠竹の田之浦公園を負ひ、前は錦江灣に望みて櫻島に對す然も薩、日、隅三州の山水は左右の眼界にあり、其の廣濶なる、其の雄大なる、實に九州第一と云ふべし、尙ほ茲には祇園之洲あり、琉球人松あり、其他名所舊跡に富む、吾人一たび此處に遊ば、忽ち天下の樂園なるを思ふ

幽佳仙人

ピブルローカー

## 公債 株式 賣買

鹿兒島市山下町廣口

林平兵衛商店

電話二二二一 番二三三四番  
 振替口座大阪七〇七番  
 受信略稱(カゴシマハヤシ)

# 襖障子

## 欄間屏風

### 製造販賣元

並ニ襖張用芭蕉布、繪形紙、  
引手、網糸類卸小賣

鹿兒島市仲町  
西本願寺別院前角

⊙ 蓑田澤太郎店  
電話八二〇番

諸國漆器  
琉球漆器  
各種

### 大勉強卸小賣商

鹿兒島市仲町御着屋吉野屋前

永野商店  
電話八五九番

## 御旅館 吉田屋

鹿兒島市仲町  
吉田英助  
電話二二四番

# 外科

診察時間 午前八時ヨリ午後四時迄  
午後七時ヨリ全九時迄

日曜祭日正午十二時限リ

鹿兒島市船津町四十一番戸菩薩堂通

## 安田醫院

電話二六九番

醫學得業士 安田清三

# 文具商

登録商標 (ト)

文榮堂

鹿兒島市石燈籠通上

赤木徳三郎

電話二五八番

東京高島青林堂製筆  
沖繩三縣一手販賣  
宮崎鹿兒島

南洲翁印筆墨發賣元



露光量違いの為重複撮影

本願寺別院御用達  
各宗派御用掛  
佛壇 佛具 一式



鹿兒島市中所 粟嶺寺前  
上田宗三郎商店

附録

鹿兒島語と普通語

挨拶——店頭——旅館——訪問——散歩——書店  
——家庭——普通用語

方	言	普	通	語
キニア、マダッ、ゴアシタ	キニア	お早う、ございます		
オマンサア、ドケ、オヂヤスカ	オマンサア	汝は、何處へ、御出でなさりますか		
オヤットサア	オヤットサア	御苦勞様		
オカゲ、サーデ	オカゲ	お構ひ、下さいますな		
オレイナ、オヨモハン	オレイナ	お蔭様で		
ナイガ、オマンサー	ナイガ	御禮には及びません		
サキ、オサイ、ヂヤシ	サキ	何う致しまして		
ナイモ、ゴツンガ、ゴアハン	ナイモ	お先さへ、入らつしやい		
ハシメツ、オメイ、カ、ス	ハシメツ	何も、御馳走が、ありません		
ナイカ、ゴヨ、ゴアスカ	ナイカ	始めて、御目に、かゝります		
キニニ、ヤットカット、キダシ	キニニ	何か、御用ですか		
モシタ	モシタ	昨日、やうく來得ました		
ナンテロサエ、ヨロシニ、ギ	ナンテロサエ	何某様へ、宜敷仰せ下さい		
ツタモシ	ツタモシ	左様なら		
ソイナラ	ソイナラ			

露光量違いの為重複撮影

本願寺別院御用達  
各宗派御用掛  
佛壇 佛具 一式

鹿兒島市中所 粟願寺前  
上田宗三郎商店



# 附録

## 鹿兒島語と普通語

挨拶——店頭——旅館——訪問——散步——書店  
 家庭——普通用語

方 言	普 通 語
キニア、マダッ、ゴアシタ	お早う、ございます
オマンサア、ドケ、オヂヤスカ	汝は、何處へ、御出でなさら ますか
オヤットサア	御苦勞様
オカメ、ヤッタモス、ナ	お構ひ、下さいますな
オカダ、サーデ	お蔭様で
オレイナ、オヨッモハン	御禮には及びません
ナイガ、オマンサー	何う致しまして
サキ、オサイ、ヂヤシ	お先さへ、入らつしやい
ナイモ、ゴツンガ、ゴアハン	何も、御馳走が、ありません
ハシメツ、オメイ、カ、ス	始めて、御目に、かゝります
ナイカ、ゴヨ、ゴアスカ	何か、御用ですか
キニニ、ヤットカッタ、キダシ	昨日、やうく來得ました
モシタ	何某様へ、宜敷仰せ下さい
ナンテロサエ、ヨロシニ、ギ	左様なら
ヤッタモシ	
ソイナラ	

店頭

方言

コユ、ミセチミッタモン  
チワ、ドシコ、ナ  
ソクタ、五圓ゴアング  
ソゲン、タケトナ  
イッチ、ヤシイトラ、ミセチ  
ミヨ  
ヤスイタ、タマハンド  
ソイドン、イットキ、タマシ  
バ、ヨカトヂヤッデ、ソユヤッ  
チクリ

旅館

方言

間ガ、エ、チヨッカ  
ハイ、ヨカ間ガ、エ、チヨイモ  
ス  
ドーカ、オサイヂヤ、タモシ  
竹、旦那サーラ、二ヶーン、  
五番ニゴアンネ、モシヤゲ  
コイガ、オザシキ、ゴサイモ  
ス  
ワゼー、サミデ、イッキ、火ラ  
モッケ  
イッキ、ユーメシニ、デックレ

普通語

之れを見せて、下さい  
價は、何程か  
それは、五圓ですが  
そんなに、高いのか  
一番、安價いのを、見せよ  
安いのは、たもてませんよ  
けれども、暫く保てば、よい  
のだから、それをやつてくれ

普通語

間が、わいて、居るか  
へい、よい間が空いて居ます  
何うか、お入り下さい  
竹や(女中)旦那様を、二階の  
五番に、御案内申上げよ  
これが、御座敷でございます  
大層、寒いから、直ぐ、火を持  
て来い  
直ぐ、夕飯を、出して呉れ

訪問

方言

オイ、メロー、ナイカ、シン  
ブンガ、アッカネ  
ハイ、鹿兒嶋新聞ト實業新  
聞ト二ツゴザンガ、ドッチガ  
イリモスカ  
鹿兒嶋ンホラ、モッケ  
アスノアサ、何時イ、オ立チ  
ヤイモスカ  
六時イ、デカケンニヤナラン  
私ガ、キテ、オコシ、シヤゲ  
モソカイ  
ドウカ、ソゲン、シチクレ

普通語

オイ、姉さん、何ぞ新聞がある  
かね  
へい、鹿兒嶋新聞と實業新聞  
と二通りございます、どちら  
が、御入用でございますか  
鹿兒嶋の方を、持て来い  
明朝は、何時、お立ですか  
六時に、出掛けにや、ならない  
私が参りまして、お起し、申し  
ませうか  
何うぞ、どうして、おくれ

アタシア、モ、御暇ヲセン  
ニヤ、ナ、ハン  
ワタンヤ、キヌワ、ワゼー、イ  
ソガシユゴアンデ、又御目  
イ、カカンソ

散步

方 言

ドッカ、散歩イ、イコヤ  
ヨウ、イッガ  
ドッチサチ、イッガエカ  
イッベコッベ、サリチ、ミロヤ  
ソイガヨカロ  
チットモ、ホコイガ、タチモ  
ハンナ  
ヨベ、雨ガ、フシタデ  
モ、何時ナ  
イッキ、五時ガ、ナンソ  
ソゲン、オスゴアスカ、ソイ  
ナラ、カエンソ、カ  
ドッカ、イットキ、ヨクイ、モ  
ソゲン、シモン  
コカ、ガッツイ、エトコイテ

私は、もう、御暇致さねば、な  
りません  
私は、今日は、大層、忙しくあ  
りますから、何れ又御目に、か  
ゝりませう

普通 語

何處へか、散歩に、行かうか  
諾、行かう  
何方へ、行くが、よいか  
處々方々、歩いて、みようか  
そう、それが宜しからう  
少しも、塵埃が、たちませんね  
昨夜、雨が降りましたで  
もう、何時ですか  
直に、五時を、うちませう  
そんなに、遅くございますか  
それなら歸りませうか  
何處へか、暫時、休みませう  
か  
左う、致しませう  
此處は、ほんとうに、よいとこ  
ろね

ホンノコテ、愉快ナ、散歩ゴ  
アシタ

書店

方 言

本ノ見セッタモシ  
イケナ、本ガ、ゴ入用ゴアス  
カ  
鹿兒島市案内ノ本ガ、ゴア  
スカ  
ハイ、ゴアンガ  
價ハ、ドシコ、ゴアスカ  
コヤ、三十五錢ゴザイモス  
ソラ、ワゼー、タケ  
イーヤ、タケコタ、ゴアハン  
コヤ、一番ヨカ、品ゴアス  
マチット、ヤシ本ハ、チカ  
モ、ホカニ、ゴザイモハン  
ソイナラ、モ、ヨカロー

誠に、愉快な、散歩でした

普通 語

本を見せておくれ  
どんな本が、御入用ですか  
鹿兒島市案内の本があります  
か  
ハイ、ございますが  
價は、いくらですか  
これは、三十五錢で、ございま  
す  
それは、大層たかい  
いゝへ、高いことは、ありませ  
ん  
之れは、一番よい品です  
もつと、安いのは、ないか  
もう、外にありません  
それなら、もう、よからう

家庭

方 言

イマンサキ、ダンナサアト、  
コロニサアト、オゴイサアト  
チゴサアト、ミンナ、テノチ  
オデヤシタ

普通 語

少し前、旦那様と、主婦様と御  
嬢様と、稚兒様と皆んな連れ  
だつて、御出なさいました

スッタイ、ノドガ、カエチノ  
サン  
カナチヨカガ、ウエチヨシナラ  
茶ヲ入レ  
メロ、ワヤ、吉田ドンニ、イ  
タツネ、本ヲカチケ(男子の言)  
イシブチンミダ、ナマヌキ  
デ、井ガワンミンノ、ツメテ  
トラ、クンデケ

普通用語

方 言

アン人ハ、ハツチタ  
アン人ハ、モドッキタ  
ソヤ、アンヒテ、オタンネ、  
ヤシ  
オマンサー、モーケ、ヤシタ  
カ  
アタヤ、損ノシモシタ  
聲ガ、アンマイ、ヒキ  
マツト、オロチ、オカタイ、ヤ  
シ  
オマンサー、ネビ、ゴアスカ  
アタシヤ、テソゴアス  
ソラ、マー、奇麗ナ、コッゴア  
スナー

普通語

彼の人ハ、行つてしまつた  
彼の人ハ、歸つて來た  
其れハ、彼の人ハ、お尋ねなさ  
い  
汝ハ、もうけ、ましたか  
私ハ、損をしました  
聲ガ、餘リ、低い  
モツト、聲高く、お話しなさい  
汝ハ、睡たいですか  
私ハ、だるいです  
其れハ、マー、奇麗なことです  
ネー

ソユ、オミッシヤシ  
ミツ、オンミヤシ  
アン人ン、ユコチャ、イツデ  
ン、ウソヂヤ  
チッタ、話ノ種イ、ナツヂヤロ  
ダンナサー、ドーカ、一日ノ  
御暇ヲ、クダサイ、モサン、  
カ  
センダチ、御禮イ、メシタヤ  
オルス、ゴアシタ  
御入用ダケアゲモソ  
マダ、ウグッ、モッチョス  
ワゼー、チゴチョス、カ  
ホンノ、チットゴアス  
汽車イ、オクルン、ナ  
マイ、オタ  
蚊イ、ササレチ、ネテン、ネ  
ワ、ナラン  
掛直ラユワヂ、ホントイ、ギ  
ヤツタモシ  
イカン、コツ、シモシタ  
ドシコモ、ゴアハン  
イッノ、コツ、ゴアシタ、カ  
キッ、クッガ、ヨカ  
アタイガ、ユダコツ、シヤシ  
タカ

其れを、お見せなさい  
御覽なさい  
彼の人の言ふ事は、いつでも、  
うそだ  
少しは、話の種になるだらう  
旦那様、どうぞ、一日の御暇を  
下さいませんか  
先達、御禮に参りましたら御  
留守でした  
御入用だけ上げませう  
また、澤山持つて居ます  
大層、違ひが、ありますか  
極少々です  
汽車に後るゝな  
間に、合つた  
蚊にさされて、寝ても、ねつか  
れん  
掛直を言はないで、本當に、言  
て下さい  
いけない事、しました  
いくらも、ごさいません  
何時の、事でしたか  
聞いて來るが、よい  
私が、言ふた事を、しましたか

コナイダ、オ話ノ人ハ、マダ  
イキツチヨスカ  
自分ニナ、ヨッポド、デクル  
積イデオル  
自分モ、ヤッバイ、デキンク  
セイ、  
ソラ、トホンチ、ゴ量見チゲ  
ゴアス  
約束ヲ、メス積リノ、デカ、  
コン人ゴアスカ  
兩親ハ、アタイガ、チンケ、  
ジブン、ケシンドダ  
ナイゴテ、ソゲン、マツゲラ  
メシモシタ、カ  
ソコガ、アン人ン、落度ゴア  
ス  
ソゲントカ、イケンシテ、ヨ  
カカ、ワカラシ、モンヂヤ  
ガツイ、コイト、ヒトッヨナ  
品ガアツ、カ  
ソイデ、ガツイ、ヨカ  
ダイガ、ソゲン、ユモシタカ  
ソコガ、肝腎ナ、トコイヂヤ

此間、お話しの人ハ、まだ生き  
て居りますか  
自分には、餘程、出来る積りで  
居る  
自分も、矢張り、出来んくせに  
其りや、大そう、御量見違です  
約束を、なさる積りの、大工は  
此人ですか  
兩親は、私の小さい時分に、死  
んでしまつた  
どうして、そんな間違を、なさ  
いましたか  
それが、彼の人の、落度です  
そういふときには、何うして、  
よいか、分らないものだ  
丁度、此れと、同じ様な、品が  
あるか  
それで、丁度よい  
誰が、そう、言ひましたか  
そこが肝腎な處だ

特に遠來の  
祝意を感謝す

十一月天長の佳節

著者

祝發刊

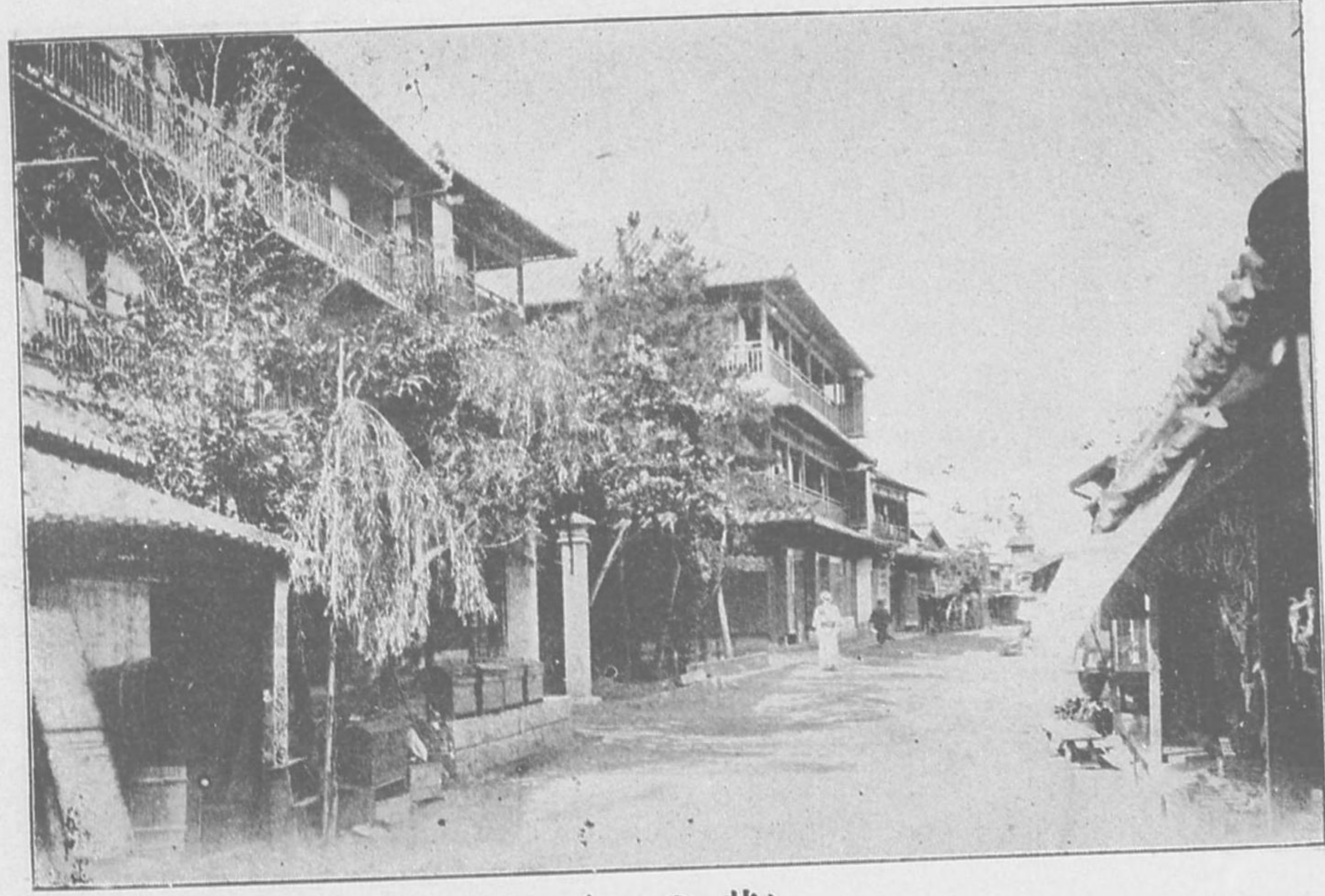
熊本市上通町五丁目

九州日日新聞社

印刷部

- 營業種目
- 新聞雜誌印刷
  - 各種活版印刷
  - 石版彫刻及印刷
  - 寫眞製版及印刷
  - コロタイプ印刷
  - 洋式諸帳簿
  - 各種製本
  - 活字鑄造

日奈久温泉金波樓及前通



(其の一)

祝發刊

祝發刊

南薩定期氣船

港名	下リ	上リ	賃金
鹿兒島	發前 九〇〇	着 四三〇	鹿島ヨリ
山川	全後 〇三〇	發後 一〇〇	鹿島ヨリ
川尻	全 一五〇	全 二四〇	五
石垣	全 三〇〇	全 四〇〇	六
松ヶ浦	全 三五〇	全 四五〇	七
枕崎	全 四〇〇	全 五〇〇	八
坊ノ津	着 五〇〇	發前 七〇〇	九

伊佐敷定期一月十日寄港入  
月三回廿日

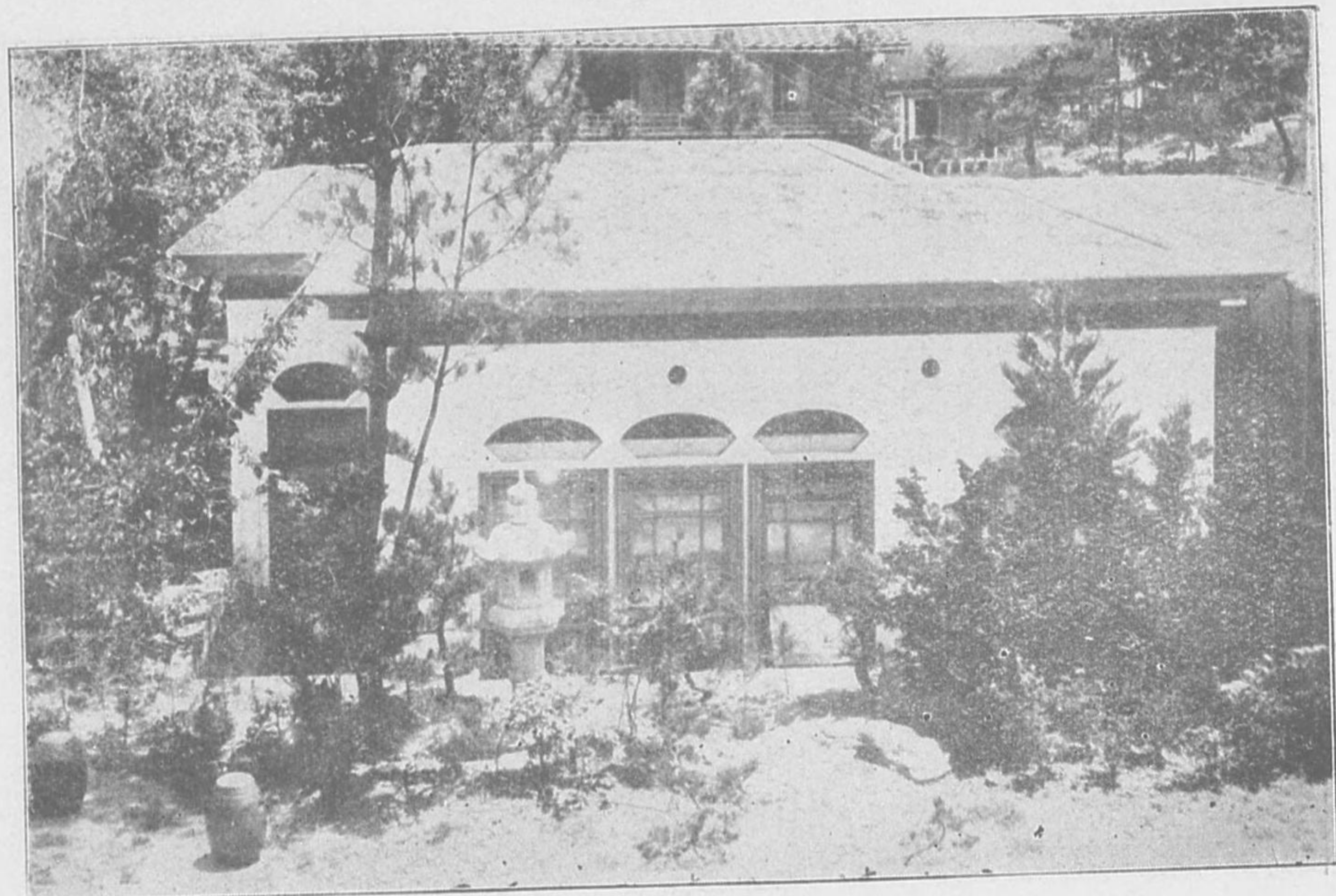
旅客取扱懇切  
貨物運送急速

熊本縣宇土郡三角港

肥後氣船株式會社

鹿兒島市築町  
代理店 樋口回漕店

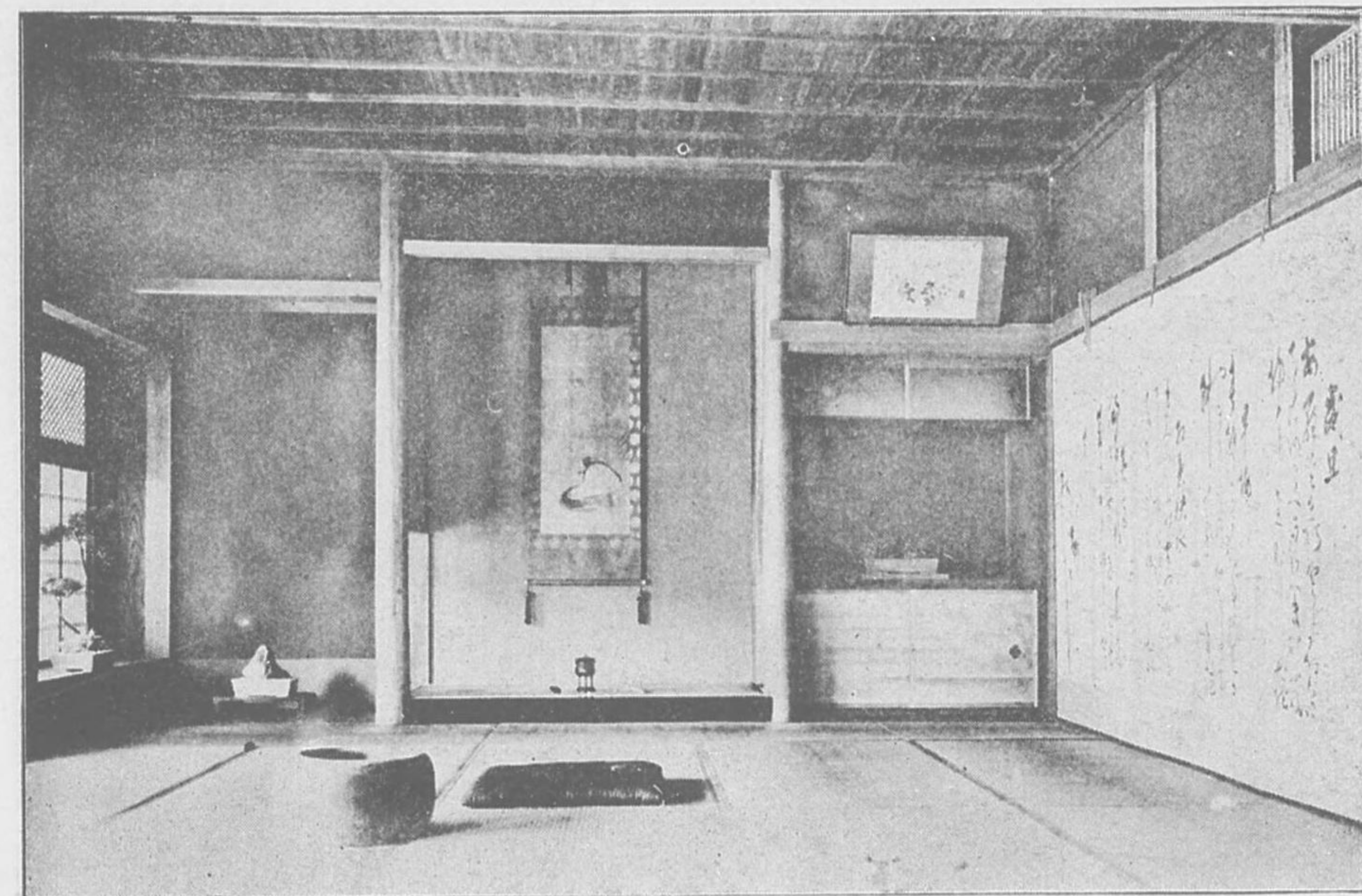
園庭上屋及湯浴 樓波金 泉温久奈日



(三の其)

五

敷座階二樓波金 泉温久奈日

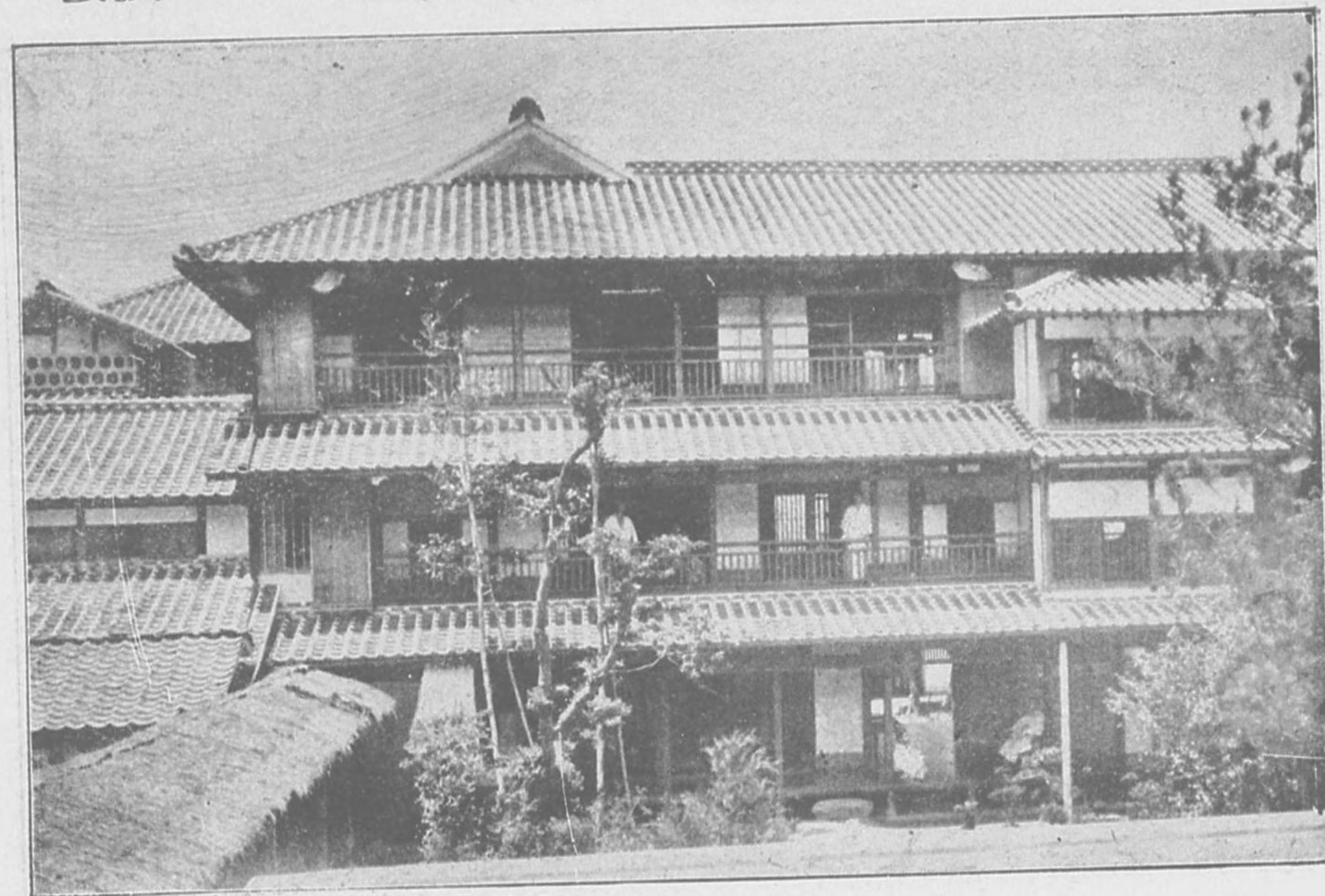


(二の其)

四



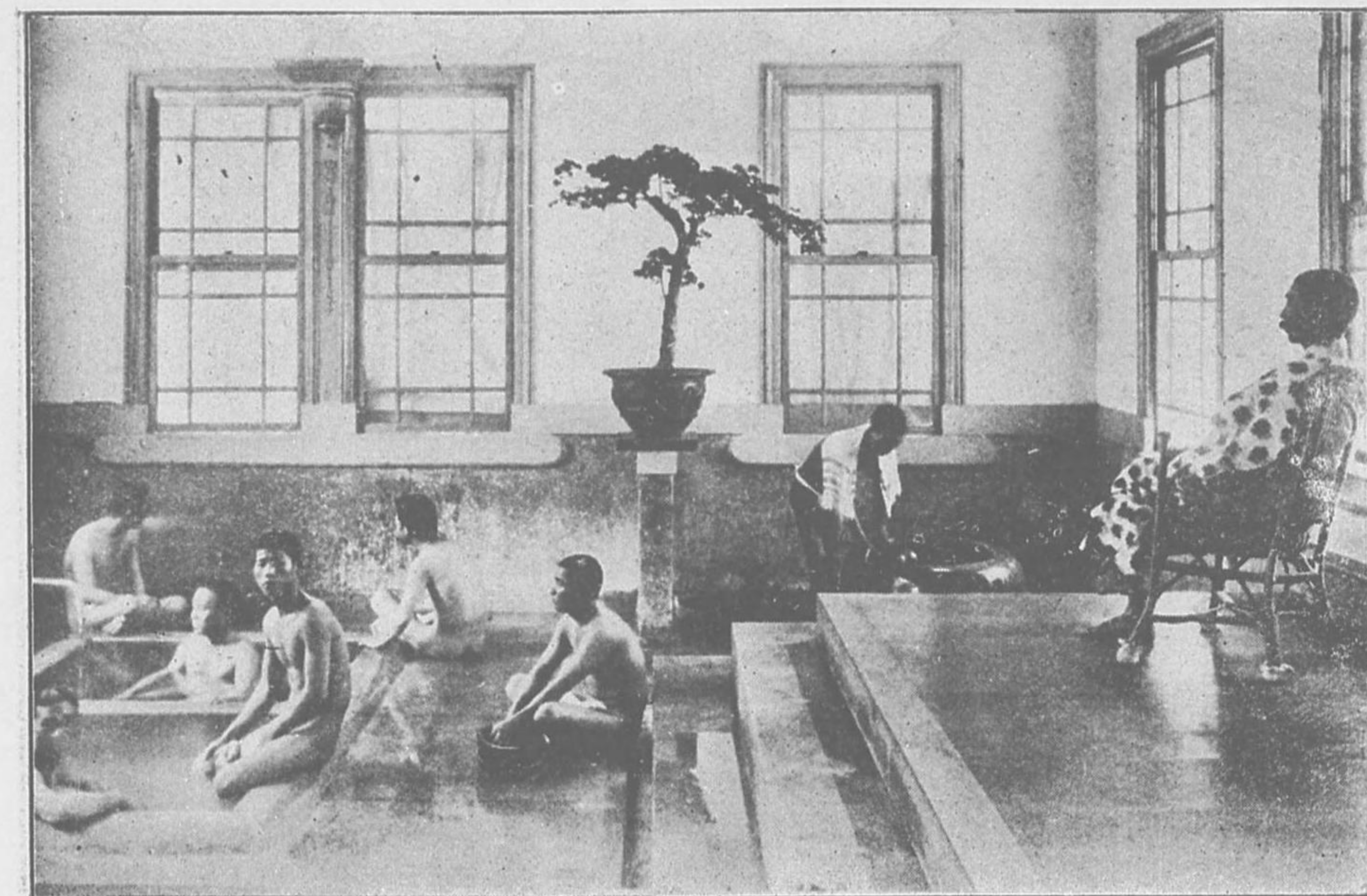
日奈久温泉 金波樓 上庭園 見りたる 金波樓



(其の五)

七

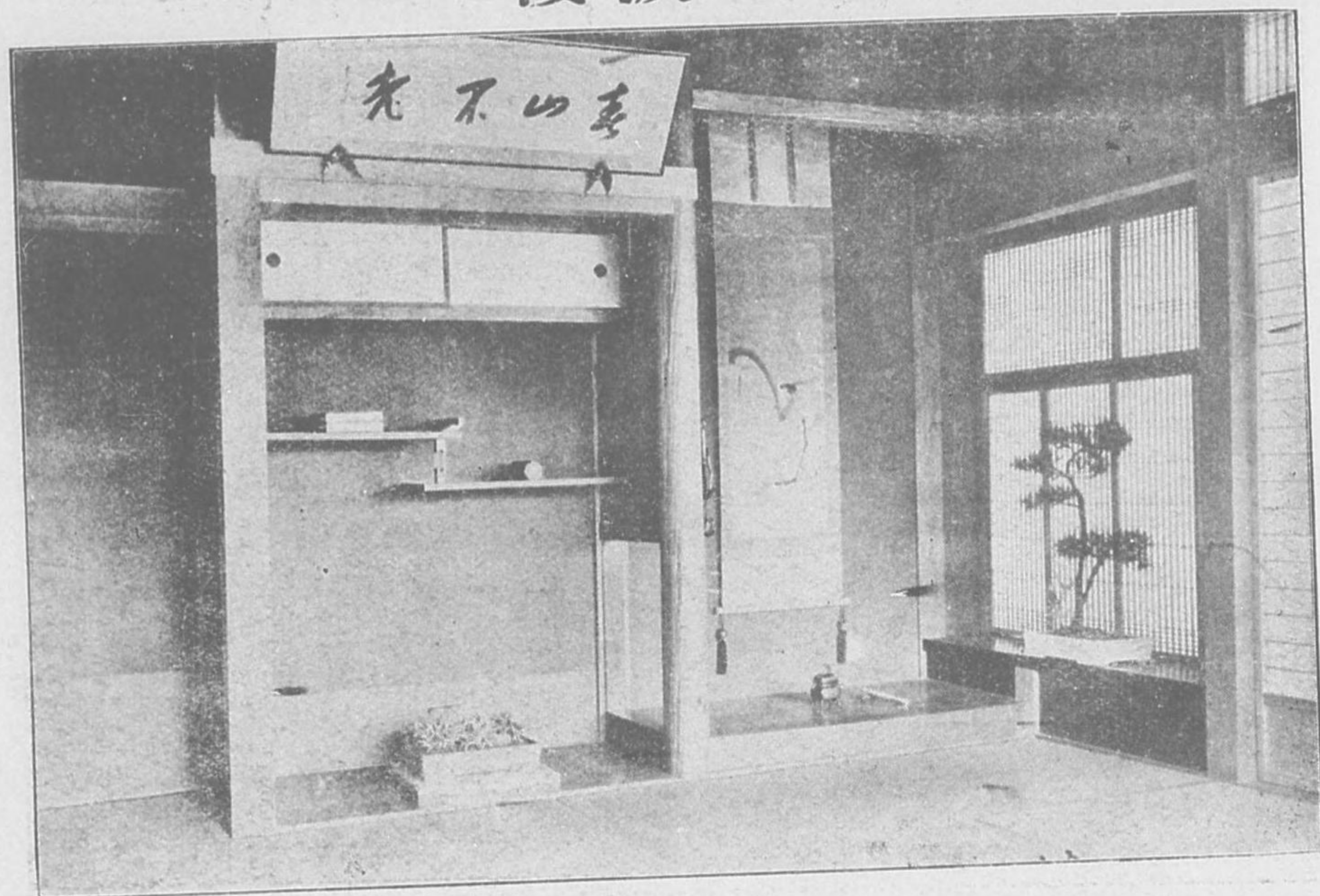
日奈久温泉 金波樓 浴場内 部



(其の四)

六

敷座階三樓波金泉温久奈日



(七の其)

九

園公山鳩るた見りよ階三樓波金泉温久奈日



(六の其)

八

關西第一之時計店



熊本市迫時計商店東唐人町

熊本市旅館研支店 手取本町



本店は洗場町にあり

支店(電話一一番)

本店(電話一〇番)

和洋銅鐵釘諸金物卸商



電話二六三番

熊本市河原町  
光嶋屋 光島常太郎

明治四十三年十一月十五日印刷  
明治四十三年十一月廿五日發行

定價 參拾五錢

不許  
複製

鹿兒島市平之町七十一番地  
大同生命保險株式會社外事

著作者 勝野時太郎

鹿兒島市仲町二十五番地

發行者 吉田幸兵衛

熊本市上通町四十二番地

印刷者 木村禎藏

熊本市上通町四十二番地

印刷所 九州日日新聞社

發行所 鹿兒島市仲町 吉田書房

發賣所  
鹿兒島市 仲町 吉田書房  
鹿兒島市 高麗町 吉田支店  
鹿兒島市 川內向田町 吉田支店

2619

資本金七百萬元  
積立金百九拾貳萬圓

鹿兒島市築町三番戶



株式會社 浪速銀行 鹿兒島支店

電話 五番。四六七番。千五番

支店長 愛甲兼達

支店副長 上井保

全 沖雄熊

本店 大阪市東區淡路町

支店

大阪西區支店 大阪南支店

大阪難波支店 東京支店

東京蠟殼町支店 神戶支店

堺支店 西之宮支店

和歌山支店 隈之城支店

大島支店

終